

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員					
保育原理 (Principles of ECCE)		喜舎場 勤子					
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：保育の意義および目的・方法・内容等の基礎理論を理解する。							
思考判断：使命感や倫理観を育む。批判的思考力や判断力を養う。							
関心意欲：新聞等の関連報道に興味を持つ。社会システムの中の保育のあり方に関心を持つ。							
態 度：豊かな保育実践を支える基礎的な力を培うと共に、保育者としての人間性を育む。							
授業の概要							
保育原理では、保育の根源を踏まえつつ諸分野の専門的事項を学ぶ。保育者は限られた個人的信条や経験にのみとられることなく、理論的根拠や学問的背景に基づいて、自らの保育を実践していくことが求められる。本授業では保育の意義等の基礎知識の習得を目的とすると共に、保育を取り巻く諸課題についても理解を深める。実践から得た知見と先人の思想や諸領域からの学術的知見等、保育の基礎理論を学ぶ。							
予習：シラバスを確認し、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。わからない言葉は調べておく。							
復習：授業で学んだ箇所の要点を整理し、自分の言葉で説明できるようにする。							
授 業 計 画							
第 1 回： 保育とは	第 9 回： 幼稚園教育要領について						
第 2 回： 保育の対象と場	第 10 回： 健康と安全について						
第 3 回： 子ども観	第 11 回： 保育施設の誕生と発展						
第 4 回： 子ども理解	第 12 回： 保育者とは						
第 5 回： 保育における環境理解	第 13 回： 家庭支援と子育て支援						
第 6 回： 保育内容と方法	第 14 回： 保育の現状と課題						
第 7 回： 保育の計画	第 15 回： 認定子ども園教育保育要領について						
第 8 回： 保育所保育指針について	第 16 回： 定期試験						
テキスト： 森上史郎ほか編『新保育講座 保育原理』ミネルヴァ書房							
参 考 書： 厚生労働省『保育所保育指針』・文部科学省『幼稚園教育要領』・内閣府『認定子ども園教育・保育要領』その他必要なものはプリントを配布する							
評価方法・評価基準：							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○				60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				30
授業態度			○	○			10
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意： 講義形式の授業ですが双方向型の講義を重視しできるだけ発言の機会をもうける。 提出物は期限厳守。 レポートについては初回講義時に説明予定。							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員				
教育原理 (Principles of Education)			喜舎場勤子・糸洲理子				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：教育の意義や制度そして実践に関する基礎理論について理解する。また、児童福祉との関わりや生涯学習社会の現状と課題についても理解する。							
思考判断：使命感や倫理観を育む。批判的思考力や判断力を養う。							
関心意欲：教育に関する時事問題に興味を持つ。社会システムの中の学校教育のあり方に関心を持つ。							
態度：豊かな教育実践を支える基礎的な力を培うと共に、保育者としての人間性を育む。							
授業の概要							
教育原理は、幼稚園教諭免許状・保育士資格にかかる講義のため、「保育」も広義の「教育」形態という前提で計画が構成されている。教育の意義や制度を含む、実践に必要な基礎理論について学ぶ。具体的には、教育が社会の中でどのように誕生し営まれてきたのか、歴史的・思想的変遷を通してそのしくみを理解する。また、教育等の関連法規や現行の教育制度・運営・経営の事項についても触れる。							
予習：シラバスを確認し、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。わからない言葉は調べておく。							
復習：授業で学んだ箇所の要点を整理し、自分の言葉で説明できるようにする。							
授 業 計 画							
第 1 回： 教育とは		第 9 回： 教育実践の基礎理論					
第 2 回： 教育の定義と意義・目的		第 10 回： 教育実践の多様な取り組み					
第 3 回： 教育と児童福祉		第 11 回： 学校を取り巻く課題					
第 4 回： 諸外国の教育思想と子ども観		第 12 回： 課題発表①					
第 5 回： 日本の教育思想と子ども観		第 13 回： 課題発表②					
第 6 回： 教育制度		第 14 回： 生涯学習社会の概念					
第 7 回： 教育法規・教育行政		第 15 回： 諸外国の教育制度					
第 8 回： 学校教育・教員に関する制度		第 16 回： 定期試験					
テキスト： 保育士養成講座編纂委員会『教育原理』全国社会福祉協議会 2013							
参 考 書： 文部科学省『幼稚園教育要領』・厚生労働省『保育所保育指針』、必要に応じてプリント対応							
評価方法・評価基準：							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○	○				60
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			10
受講者の発表	○	○	○				30
演 習							
その他							
履修上の注意： 講義形式の授業ですが、双方向型の講義を重視しできるだけ発言の機会をもうける。 提出物は期限厳守。 レポートについては初回講義時に説明予定。							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員					
児童家庭福祉（＝児童福祉） (Child Welfare)			川西 康裕					
授業の到達目標及びテーマ								
1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解します。 2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解します。 3. 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解します 4. 児童家庭福祉の現状と課題について理解します。 5. 児童家庭福祉の動向と展望について理解します。								
授業の概要								
テキスト、小六法、ならびに参考書に即して講義します。盛りだくさんな内容ですが、留岡幸助、北海道家庭学校、子どもの権利条約についてはクローズアップし、施設実習ならびに家庭支援論への橋渡しも試みます。また、児童家庭福祉の現状認識を深めるために、居住地域で現場体験をおこないます。 予習：テキストを事前に読むこと／現場体験の発表練習をすること 復習：テキストを読みなおし、配布資料および講義記録ならびに小テストを読みなおすこと								
授 業 計 画								
第 1 回： 福祉系科目の体系		第 9 回： 保育						
第 2 回： 児童家庭福祉の定義 小テスト		第 10 回： 児童養護問題 小テスト						
第 3 回： 児童家庭福祉の課題 ー現代社会と子どもの生活		第 11 回： 非行問題						
第 4 回： 児童家庭福祉の理念 小テスト		第 12 回： 障害児福祉 小テスト						
第 5 回： 児童家庭福祉の歴史（留岡幸助と北海道家庭学校を中心に）		第 13 回： 児童家庭福祉の専門職						
第 6 回： 児童家庭福祉および 関連施策の体系 小テスト		第 14 回： 世界の子どもたちと 「子どもの権利に関する条約」						
第 7 回： 児童家庭福祉の法制度		第 15 回： 居住地域での児童家庭福祉現場体験 発表						
第 8 回： 居住地域での児童家庭福祉現場 体験		第 16 回： まとめ						
テキスト： 山野則子・武田信子編『子ども家庭福祉の世界』有斐閣、2015 年 [小六法]『保育小六法 2016』ミネルヴァ書房、2016 年 [参考書] 渡辺顕一郎『子ども家庭福祉の基本と実践——子育て支援・障害児支援・虐待予防を中心に』金子書房、2009 年								
評価方法・評価基準：								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
レポート 現場体験		○	○	○				40
小テスト		○	○	○				50
受講者の発表						○		10
演 習								
履修上の注意： テキストと『保育小六法 2015』を必ず購入してください。居住地域の現場体験は未体験の通所施設（認可保育所を除く）を対象にします。時事問題に即して講義の順序は変更することがあります。								

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
社会福祉 (Social Welfare)		保良 昌徳

授業の到達目標及びテーマ

1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 児童福祉を中心に高齢者や障害者の権利保護・支援体制等について理解する。
3. 現行の社会福祉制度・サービス体系・実施体系等について理解する。
4. 社会福祉・ソーシャルワークの援助技術の実際を、事例等を通して理解する。
5. 最新の社会福祉の状況を理解し、今後の展望について考察する。

授業の概要

①講義は以下の講義計画に基づいて行う。(但し、必要に応じて変更することもある) ②講義では可能な限り質疑を交えて行う。 ③講義ではテキスト・当日資料・スライド等を用いる。 ④理解を深めるためレポートや切り抜きを課す。 ⑤現場に触れる課題を課し、理論と実践の関連について理解する。

授 業 計 画

第1回： 大学で社会福祉を学ぶ意義	第9回： 社会福祉現場の課題とまとめ
第2回： 社会福祉の概念・理念	第10回： 福祉現場における主な援助理論
第3回： 社会福祉のながれ（海外）	第11回： 社会福祉の専門性と専門職
第4回： 社会福祉のながれ（日本）	第12回： 地方分権と市町村の役割
第5回： 社会福祉の法律と制度	第13回： 社会福祉の最新動向（児童福祉等）
第6回： 社会社会の施策と進め方	第14回： 社会福祉の最新動向（高齢者など）
第7回： 当事者運動と権利保障	第15回： 社会福祉の課題と今後の展望
第8回： 社会福祉現場の実践例	第16回： 最終試験

テキスト：『国民の福祉と介護の動向』厚生統計協会、2015年（可能な限り購入すること）

『社会福祉小六法』（最新版、出版社は問わない）

評価方法・評価基準：評価は出欠状況・レポート・切り抜き・試験の成績等をもとに総合的に評価する。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
レポート 現場訪問	○	○	○		○		15
期末試験	○	○					45
質問への対応		○	○	○			5
課題レポート	○	○				○	20
切り抜き・まとめ			○		○	○	15
その他（授業態度等）			○	○		○	+α

履修上の注意：予習・復習など

- ①事前に講義計画を確認し、自分なりに予習し、講義中の質問に備えること。 ②レポートは指定日の講義開始前に提出（メールでも可）すること（時間後は受け付けない）。またに無断コピーが発見された場合は評価の対象としない。 ③講義始めの課す「新聞の切り抜き」は指定された方法・まとめ・期限を守ること。 ④試験の補完としてノート提出を課すので、自分なりにまとめ整理しておくこと。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員					
キリスト教保育 (Introduction to Christian Education)		喜舎場 勤子					
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：キリスト教保育の「世界観」「人間理解」「子ども観」等、基礎的事項を学ぶ。							
思考判断：使命感や倫理観を育む。批判的思考力や判断力を養う。							
関心意欲：国内外の子どもを取り巻く諸状況に関心を持つ。社会的に弱い立場の人々に関心も持つ。							
態 度：「隣人愛」「共生」の視点に立った保育実践を支える力を培う。保育者としての人間性を育む。							
授業の概要							
キリスト教保育は、日本における創設期から発展の過程において、近代保育を形づくる重要な役割を担い多大な影響を与えてきた。本講義では、聖書に描かれる人間や子どもについて学び、キリスト教保育の根幹である「隣人愛」「共生」について理解する。また、キリスト教保育の重要な部分を占める「子ども礼拝」「保育行事」等の基礎的事項についても学ぶ。							
予習：シラバスを確認し、関連する資料等を事前に読んでおくこと。わからない言葉は調べておく。							
復習：授業で学んだ箇所の要点を整理し、自分の言葉で説明できるようにする。							
授 業 計 画							
第 1 回：キリスト教保育とは	第 9 回：キリスト教保育の歴史						
第 2 回：聖書の世界観・人間理解	第 10 回：教会歴とクリスマス（保育行事）						
第 3 回：聖書の子ども理解	第 11 回：教会歴とイースター（保育行事）						
第 4 回：子ども礼拝①	第 12 回：教会歴とペンテコステ（保育行事）						
第 5 回：子ども礼拝②	第 13 回：課題発表①						
第 6 回：キリスト教保育の実践	第 14 回：課題発表②						
第 7 回：隣人としての子ども①	第 15 回：キリスト教保育と平和						
第 8 回：隣人としての子ども②							
テキスト：キリスト教保育連盟『新キリスト教保育指針』2012（第 5 版）							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				40
授業態度			○	○			10
受講者の発表	○	○	○				50
演 習							
その他							
履修上の注意： 講義形式の授業ですが双方向型の講義を重視しできるだけ発言の機会をもうける。 提出物は期限厳守。課題については初回講義時に説明予定。提出物は期限厳守。							

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
発達心理学 I (Developmental Psychology I)		大城りえ

授業の到達目標及びテーマ

子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。さらに、初期経験の重要性を理解し、保育との関連を考察する。

授業の概要

乳幼児の発達の特徴を学び、保育者に求められるかかわりを理解する。さらに、障がいのある子どもたちの発達を理解し、支援の方法を学ぶ。

予習：テキストの該当箇所を事前に読むこと

復習：講義で学んだ箇所を読み、講義内容の理解に努めること

授 業 計 画

第 1 回： オリエンテーション、 発達心理学を学ぶ意義	第 9 回： 乳幼児期：ことばの発達と社会性
第 2 回： 生涯発達と発達援助	第 10 回： : 基本的信頼感の獲得
第 3 回： 胎児期の発達	第 11 回： : 他者とのかかわり
第 4 回： 新生児期の発達	第 12 回： : 社会的相互作用
第 5 回： 乳幼児期：身体的機能と運動機能 の発達	第 13 回： : 遊びの発達
第 6 回： : 知覚の発達	第 14 回： 障がいのある子どもたちの理解①
第 7 回： : 認知の発達	第 15 回： 障がいのある子どもたちの理解②
第 8 回： : 感情の発達と自我	第 16 回： 期末試験

テキスト： 新保育士養成講座編纂委員会（編）新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学 全国社会福祉協議会
その他担当者が準備する。

参 考 書： 随時、紹介する。

評価方法・評価基準：期末試験、授業内レポート（毎時間提出）、授業態度

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○			50
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				35
授業態度			○	○			15
受講者の発表							
演 習							
その他							

履修上の注意：

授業科目名		2単位 (0-2)	担当教員				
乳児保育 (=乳児保育演習) (Seminar in Prenursery Education)			大城りえ・山城いこ・仲宗根京子				
授業の到達目標							
乳児保育の理念と役割、現状と課題について理解する。また、発達の特徴をふまえた3歳未満児の生活と遊びについて理解する。さらに、乳児保育の計画や記録等、保護者や関連機関について学ぶ。							
授業の概要							
乳児保育の基本と3歳未満児の発達の特徴をふまえ、生活と遊びについて学ぶ。また、演習を通して、乳児の世話の仕方や、必要な道具の扱い方を習得する。それらをふまえ、保育所保育指針に基づいた乳児保育の実践、計画等を理解する。							
予習：テキストの該当箇所を事前に読むこと。							
復習：講義で学んだ箇所を読み、講義内容の理解に努めること							
授 業 計 画							
第1回：	オリエンテーション、 乳児保育の理念と役割	第9回：	乳児の抱き方、おんぶの実習				
第2回：	乳児保育の現状と課題	第10回：	調乳・授乳の実習				
第3回：	乳児保育（0歳児）の実際：ある 保育園の1日（ビデオ学習）	第11回：	オムツ替え、清潔、着替えの実習				
第4回：	年齢別の発達と保育内容① （グループ発表）	第12回：	乳児期の遊びと遊具				
第5回：	年齢別の発達と保育内容② （グループ発表）	第13回：	乳児保育の計画と記録①				
第6回：	乳児保育（1・2歳児）の実際： ある保育園の1日（ビデオ学習）	第14回：	乳児保育の計画と記録②				
第7回：	年齢別の発達と保育内容③ （グループ発表）	第15回：	乳児保育における連携				
第8回：	年齢別の発達と保育内容④ （グループ発表）						
テキスト： CHS子育て文化研究所（編）『見る・考える・創りだす 乳児保育』萌文書林 その他担当者が準備する。							
参 考 書： 随時、紹介する。							
評価方法・評価基準：小テスト、グループ発表、演習、課題（手作り教材の提出）、授業態度							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					30
授業態度			○	○			10
受講者の発表	○		○	○			20
演 習	○		○	○	○		20
課 題	○				○		20
履修上の注意：グループ発表や実習を積極的に行い、欠席しないこと。							

授業科目名		2単位 (2-0)	担当教員				
子どもの保健Ⅰ（＝小児保健Ⅰ） (Health Care for Infants I)			笹良 秀美				
授業の到達目標及びテーマ 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。							
授業の概要 1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。 2. 保育者として、子どものもっている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。 予習：教科書を事前に読み、分からない語句等は調べておく 復習：レジュメ及び教科書を再度読みかえす							
授 業 計 画（※講義内容については、若干変更になる事があります。）							
第 1 回： 小児保健の意義		第 9 回： 小児の発達・発育（生理機能Ⅰ 体温調節・呼吸・循環・消化吸収）					
第 2 回： 小児の発達・発育 （小児の成長）・子どもの健康		第 10 回： 小児の発達・発育（生理機能Ⅱ 排泄・水分代謝・免疫・睡眠）					
第 3 回： 小児の発達・発育（身体の計測・ 身体発育の評価）成長に及ぼす因子		第 11 回： 小児の発達・発育（新生児）					
第 4 回： 小児の発達・発育（身体発育の評価） 脳、感覚器、運動機能		第 12 回： 小児の栄養（母乳栄養を中心に）					
第 5 回： 小児の発達・発育（演習）		第 13 回： 小児栄養グループワーク					
第 6 回： 小児の発達・発育（小児の発達Ⅰ）		第 14 回： 小児保健行政					
第 7 回： 小児の発達・発育（小児の発達Ⅱ 運動機能・子どもの姿勢）		第 15 回： 幼児期の性の健康教育					
第 8 回： 小児の発達・発育 （小児の発達Ⅲ 精神発達）		第 16 回： 期末テスト					
テキスト： わかりやすい小児保健 同文書院							
参 考 書：							
評価方法・評価基準： 1. 課題レポート 2. 期末テスト 3. 授業態度							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 （中間・期末試験）	○	○					80
小テスト・ 授業内レポート	○				○		10
授業態度			○	○			10
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
子どもの保健Ⅰ（＝小児保健Ⅰ） (Health Care for Infants I)		知念 菜穂子

授業の到達目標及びテーマ

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について理解する。

授業の概要

1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。
2. 保育者として、子どもの持っている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。

予習：事前にテキストを読むこと

復習：講義の内容をより理解し、応用できるよう努める

授 業 計 画 （※講義内容については、若干変更になる事があります。）

第 1 回： はじめに 妊娠・出産のビデオ鑑賞	第 9 回： 子どもの発達・発育 (子どもの発達Ⅲ 精神発達)
第 2 回： 子どもの健康と保健の意義	第 10 回： 子どもの発達・発育 (生理機能Ⅰ 体温調節・呼吸・循環・消化吸収)
第 3 回： 子どもの発達・発育 (子どもの成長)	第 11 回： 子どもの発達・発育 (生理機能Ⅱ 排泄・水分代謝・免疫・睡眠)
第 4 回： 子どもの発達・発育 (身体計測・身体発育の評価①)	第 12 回： 子どもの発達・発育 (新生児)
第 5 回： 子どもの発達・発育 (身体発育の評価②)	第 13 回： 子どもの栄養 (母乳栄養を中心に)
第 6 回： 子どもの発達・発育 (身体発育の 評価③・成長に影響を及ぼす因子)	第 14 回： 小児 (子どもの) 保健行政
第 7 回： 子どもの発達・発育 (子どもの発達Ⅰ 脳・感覚器)	第 15 回： 子どもの保健Ⅰのまとめ
第 8 回： 子どもの発達・発育 (子どもの発達Ⅱ 運動機能・子どもの姿勢)	第 16 回： 期末試験

テキスト： 「わかりやすい子どもの保健」 西村昂三編著 同文書院

参 考 書： 「子どもの保健Ⅰ」 佐藤益子 編著 ななみ書房 「保育のための小児保健」 高内正子編著 保育出版社
「小児保健Ⅰ」 田中哲郎編著 建帛社 「保育・教育のための小児保健」 新平鎮博編著 光生館
「保育保健の基礎知識」 巷野悟郎監修 日本小児医事出版社

評価方法・評価基準： 1. 課題レポート 2. ミニテスト 3. 期末テスト

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○		○				50
小テスト・ 授業内レポート	○		○	○			20
授業態度				○		○	20
受講者の発表			○	○			10
演 習							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
子どもの食と栄養(=小児栄養演習 (小児栄養)) (Child Nutrition Seminar)		古堅由紀子・下地房子
授業の到達目標及びテーマ 知識理解：5大栄養素・食品・食事の関係を理解できる。 関心意欲：幼児期からの規則正しい食習慣が健康に影響を及ぼすことに関心をもてる。 思考判断：保育者の立場から、自身の生活習慣を評価し、課題を修正できる。 態 度：栄養情報が正しい根拠かどうかを選択でき正確な判断で、対応できる。		
授業の概要 小児期における食生活は生涯における健康の基礎を築く重要な時期である。栄養の基礎知識を理解し、自身の食生活を見直すことから授乳期・離乳期・幼児期・学童期の子どもの発育・発達の栄養摂取法・食生活のあり方について講義または実習を通して学習する。また、現代の食環境の課題から食育の重要性を知り、具体的な食育実践の方法を探る。 予習：次の講義に関するキーワードを調べておくこと。 復習：授業内プリントをまとめること。		
授 業 計 画 第 1 回：子どもの健康と食生活 第 2 回：栄養・食に関する基本的知識 1（糖質・脂質・たんぱく質） 第 3 回：		

授業科目名		2単位 (2-0)	担当教員				
家庭支援論(=家族援助論) (Theory of Families)			川西 康裕				
授業の到達目標及びテーマ							
1. 家庭の意義とその機能について理解します。 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解します。 3. 子育て家庭の支援体制について理解します。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解します。							
授業の概要							
すべての子育て家庭への支援を考える科目ですが、その中心に、ひとり親家庭への支援をおきたいと思っています。沖縄は日本で一番離婚率が高く、ひとり親家庭の出現率が高いからです。自分たちの結婚がうまくいくかどうかは、誰もがフィフティ・フィフティの確率ですから、将来、支援される側の母親・父親にも、支援する側の保育者にもなるつもりで勉強します。家庭支援の現状認識を深めるためには現場体験をおこないます。また、予防的支援の視点から映画「クレイマー・クレイマー」の視聴を推奨します。 予習：テキストを事前に読むこと／現場体験の発表練習をすること 復習：テキストを読みなおし、配布資料および講義記録ならびに小テストを読みなおすこと							
授 業 計 画							
第1回：福祉系科目の体系		第9回：障害児支援における家庭支援③障害児と家族の地域生活を支える社会資源					
第2回：家庭支援の基本的視点①家族・家庭と家庭支援 小テスト		第10回：児童虐待の予防と家庭支援①社会的養護と家庭支援 小テスト					
第3回：家庭支援の基本的視点②家庭支援をめぐる現代的課題 小テスト		第11回：児童虐待の予防と家庭支援②社会的養護における子育て支援の役割 小テスト					
第4回：保育・子育て支援における家庭支援①地域子育て支援拠点		第12回：家庭支援の方法 小テスト					
第5回：保育・子育て支援における家庭支援②保育所の役割 小テスト		第13回：家庭支援の現場体験/映画「クレイマー・クレイマー」視聴					
第6回：保育・子育て支援における家庭支援③子育てを支える社会資源		第14回：家庭支援の現場体験発表					
第7回：障害児支援における家庭支援①障害児福祉制度と家庭支援 小テスト		第15回：特別講義：ひとり親家庭の生活と支援					
第8回：障害児支援における家庭支援②障害児支援と子育て支援の連携 小テスト		第16回：まとめ/ディスカッション					
テキスト：渡辺顕一郎・金山美和子著『家庭支援の理論と方法——保育・子育て・障害児支援・虐待予防を中心に』金子書房、2015年							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
レポート 現場体験	○	○	○				30
小テスト	○	○	○				40
受講者の発表					○		10
演習 (ディスカッション)	○	○	○		○		10
その他 (特別講義レポート)	○	○	○				10
履修上の注意：子育て家庭支援の現場体験をおこない、レポートを発表します。最後のディスカッションに必ず出席して発言しましょう。							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
健康指導法 (Health Education Methodology)		宮城 圭子

授業の到達目標及びテーマ 保育内容としての「健康」について理論と実際を理解する。	
授業の概要	
1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針「健康」のねらい・内容とその指導の基本を学習する。	
2. 幼児期の身体発達や運動発達など特性を踏まえて、実際の子どもの活動の姿や指導のあり方について学習する。	
3. 今日の課題である「基本的生活習慣」、「食育」、「進んで戸外で遊ぶ」について家庭との連携のあり方などを学習する。	
予習：テキストを事前によく読み、「子どもの健康」の知識を再確認しておくこと。	
復習：授業の際に配布されたレジュメを読み、講義の内容をより理解し、応用できるように努める	

授 業 計 画	
第 1 回： 学習計画	第 9 回： 基本的生活習慣にかかわる指導の展開
第 2 回： 子どもと健康	第 10 回： 食育の展開
第 3 回： 子どもの健康問題の時代推移と課題	第 11 回： 安全習慣・安全管理の指導・展開 (1)
第 4 回： 心身の健康に関する領域「健康」 (保育所保育指針・幼稚園教育要領)	第 12 回： 安全習慣・安全管理の指導・展開 (2)
第 5 回： 子どもの身体にかかわる発達	第 13 回： 幼児期の性教育・健康支援者としての保育者の役割
第 6 回： 運動遊びの意義について	第 14 回： 健康保育の実践と評価の視点
第 7 回： 運動遊びの展開	第 15 回： 保護者啓発
第 8 回： 子どもの基本的生活習慣の獲得過程	第 16 回： 定期試験
* 都合により内容や順序を変更することがある。	

テキスト： 新・保育内容シリーズ「健康」谷田貝公昭（監修） 一藝社
参 考 書： 特になし

評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度				○			30
受講者の発表	○		○		○		10
演 習							
その他							

履修上の注意：

授業科目名		1 単位 (0－2)	担当教員				
人間関係指導法 (Teach.Meth.of Hu.Rel.of Children)			赤嶺優子・宇根明美				
授業の到達目標及びテーマ							
知 識 理 解：人とのかかわりに関する領域「人間関係」の目標やねらい内容について理解をする。 関 心 意 欲：子ども理解を深めながら、領域「人間関係」のねらいと内容について具体的に学ぶ。 思考判断力：領域「人間関係」の内容と子どもの生活と遊びについて関連性を持たせて理解する。 態 度：保育の専門知識を深めていこうとする姿勢を持つ。							
授業の概要							
幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「人間関係」の目標やねらい内容等を子どもの発達と生活や遊びと関連付けて保育の全体的な構造について理解を深める。また、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育が一体となっていることを理解する。子どもの発達を理解しながら、人とのかかわりを育てる保育や保育者の役割について学びを深める。 予習：目標とねらい、内容、内容の取扱い等は、保育所指針や幼稚園教育要領を用いて事前学習をすること。 復習：授業終了後の学びや課題を明確にし、授業計画内容の理解を深めること。							
授 業 計 画							
第 1 回： 「人間関係」の意義・乳幼児期の発達と人間関係		第 9 回： ビデオ視聴「葛藤体験について」討議					
第 2 回： 保育の基本と保育内容		第 10 回： 「人間関係」の内容の取り扱い ①					
第 3 回： ビデオ視聴「人間関係のはじまり」		第 11 回： 「人間関係」の内容の取り扱い ②					
第 4 回： 「人間関係」の目標とねらい		第 12 回： 規範意識の芽生え					
第 5 回： 「人間関係」のねらいと内容 ①		第 13 回： 遊びのなかで育つ人とのかかわり					
第 6 回： 「人間関係」のねらいと内容 ②		第 14 回： ・人とのかかわりを育てる保育 ・生きる力を育む保育					
第 7 回： 「人間関係」のねらいと内容 ③		第 15 回： 人とのかかわりを育てる保育者の役割					
第 8 回： 「人間関係」のねらいと内容 ④		第 16 回： 定期試験					
テキスト： 森上史朗・小林紀子・田辺英則編『保育内容「人間関係」』ミネルヴァ書房							
参 考 書：文部科学省『幼稚園教育要領解説』・全国社会福祉協議会『幼保連携型認定子ども園教育・保育を読む』							
評価方法・評価基準：試験、課題・発表等で総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○			60
課題	○	○					30
授業態度							評価に加えず
受講者の発表	○		○				10
演 習							評価に加えず
履修上の注意：4 回目以降、ねらいや内容等について予習した内容の発表を課す。							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
環境指導法 (Nat. and So. Env. Edu. Meth.)		照屋 建太

授業の到達目標及びテーマ

保育における環境の意義について学ぶ。人との話し合いを通して他人の考え方を身につけ、理解する。数・量・形の指導方法についても考え、学習する。学生自身、自ら自然に親しむ。沖縄の自然についても学び、保育活動に取り入れる方法を自ら考える。

授業の概要

この講義では、保育内容領域の「環境」を中心にその意義・内容について学ぶ。また、周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。さらに、環境について意図的に考え、計画的にすること学ぶ。

予習：講義前に予告したテキスト部分を読み、理解しておく。

復習：講義の中で話した内容とテキストの理解をさらに深めること。

授 業 計 画

第 1 回： 講義概要説明	第 9 回： 飼育動物のかかわりと保育・栽培植物のかかわりと保育
第 2 回： グループ学習①	第 10 回： DVD 学習
第 3 回： 幼児と環境のかかわり	第 11 回： 年間行事について
第 4 回： 保育の基本と領域「環境」の位置づけ・領域「環境」における指導の観点	第 12 回： ビオトープについて
第 5 回： 好奇心・探究心のはぐくみ	第 13 回： グループ学習②
第 6 回： 人的環境としての仲間・保育者とのかかわり	第 14 回： 自然とのかかわりと保育・地域社会とのかかわりと保育
第 7 回： 物的環境としての室内環境・物的環境としての屋外環境	第 15 回： 好奇心や探究心を持って、生活に取り入れ展開にする保育について
第 8 回： 子どもの安全環境・子どもと情報環境	

テキスト： 嶋崎博嗣ほか『保育士養成のための必須科目シリーズ保育内容（環境）』一藝社
沖縄生物教育研究会編『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版
その他、必要に応じてプリントを配る。

参 考 書： その他、必要に応じて紹介する。

評価方法・評価基準： 評価は、提出物、レポート等で行う。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態 度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					10
授業態度	○		○	○			30
受講者の発表	○	○	○		○		10
演 習			○		○		10
その他		○	○		○		40

履修上の注意：課題の提出については、様式と期日を必ず守ること。遅れた場合は、受け取らない。
欠席した場合は、講義内容に関するテーマを自ら設定しレポート（1200字）を提出すること。

授業科目名		1 単位 (0－2)	担当教員					
言葉指導法 (Teach.Meth.of Children's Sp.Dev.)			今 秀子					
授業の到達目標及びテーマ								
知識理解：豊かな言葉を育む保育者の役割について説明できる。								
思考判断：言葉と保育の展開（発達及び幼児理解）について事例を通して指摘できる								
関心意欲：児童文化財の特徴、役割について理解し意欲的に実践に向けて取り組む。								
態 度：自ら感性を磨き言葉による表現力を身につける。								
授業の概要								
幼児の言葉で学んだ乳幼児の言葉の発達、保育所保育指針や幼稚園教育要領を踏襲し、幼児の言葉を豊かにする指導の方法について実技を通して学ぶ。乳幼児理解と言葉は不可分の関係で、保育の実践において「生活の中の言葉と幼児理解」「具体的な場面や状況に応じた援助の在り方」「幼児の言葉を豊かにする児童文化財の活用」など、実技や事例を通して日本語の美しさや言葉の正しさ、豊かさを学んでいく。								
予習：保育所保育指針・幼稚園教育要領における「言葉」の領域について予備知識を持ち講義に臨む。								
復習：子どもを取り巻く児童文化財は子どもの発達に必要な不可欠でその大切さを知り、実践する。								
授 業 計 画								
第 1 回：オリエンテーション・授業内容・方法・実技・課題等の共通理解		発達の中の言葉						
第 2 回：保育の基本と「領域 言葉」・体験の充実と言葉		第 9 回：①聞くこと、話すこと、思いの伝えあい						
第 3 回：幼児理解と言葉・生活の中の言葉 言葉を育てる保育者の関わり		第 10 回：②思考すること、想像すること ことば遊び						
第 4 回：言葉を豊かにする児童文化財		第 11 回：仲間を育てる「ごっこ、劇遊び」理解 ①素材検討、シナリオ作り						
第 5 回：保育者と絵本（科学絵本、生活絵本、物語絵本 その他）		第 12 回：②劇づくり（グループ）						
第 6 回：保育者の言葉と表現 ①本のメッセージを読み取る （感想文の提出）		第 13 回：③グループ発表（劇遊び）と検証						
第 7 回：②紙芝居の成り立ちと基礎的理解		第 14 回：①音声言語から文字言語へ						
第 8 回：③紙芝居の取り扱いと演じ方		第 15 回：②保育と文字の関わり ③領域「言葉」のまとめ						
		第 16 回：期末試験						
テキスト： 岡田明『『新訂』子どもと言葉』萌文書林								
参 考 書： 厚生省「保育所保育指針」文部科学省「幼稚園教育要領」その他講義で提示								
評価方法・評価基準：課題提出「絵本カードと感想文」「グループ企画発表」期末試験及び総合評価								
到達目標等 成績評価		知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (期末試験)		○	○		○			50
課題、実技、演習 への取り組み		○		○	○			30
授業態度 授業への参加度		○		○	○			10
受講者の発表				○	○	○		5
演 習		○		○		○		5
その他								
履修上の注意：保育者としての自覚に基づき自身が豊かな言葉で話せる様にする 絵本カード提出必須（7月6日まで）、ごっこ遊び：グループ発表（紙芝居）								

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員					
音楽表現指導法 (Teach.Meth.of Mu.Exp.of Children)		大山 伸子					
授業の到達目標及びテーマ：音楽表現の基礎技術を修得し、保育現場で活用しうる音楽の教材研究等に意欲を持って取り組めるようにする。							
授業の概要：身体を通して音楽を感じ、考え、表現するダルクローズの「リトミック教育法」に基づいて、音楽表現に必要な技術とその方法論を学ぶ。また、保育現場で活用しうる、手遊び、歌遊び、身体創作表現など、具体的な教材活動を通して、音楽を発展的、総合的に創意工夫できるようにする。							
予習：教材の課題を練習し発表する							
復習：リズム・フレーズなど、リズムのメトリカルな課題をおさらいし体得する。							
授 業 計 画							
第 1 回： リトミック音楽教育について	第 9 回： 3 拍子（簡易楽器や教具を使って）						
第 2 回： DVD 学習（リトミック発祥地におけるリトミック音楽教育の現状）	第 10 回： 教材研究① (手遊び歌、童謡等を題材にして)						
第 3 回： 拍の理解。基礎リズムのリズム打ちとステップ（歩く、走る、スキップ）	第 11 回： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」における『表現』領域について						
第 4 回： リズムパターンとフレージング	第 12 回： 教材研究② (テーマに即した題材に基づいて)						
第 5 回： リズムパターンとポリリズム	第 13 回： ボディパーカッション						
第 6 回： 幼児曲を題材にした創作表現	第 14 回： 教材研究③ (合奏表現の発表)						
第 7 回： イメージによる身体表現	第 15 回： 教材研究④ (幼児曲を題材にした創作表現)						
第 8 回： 拍子感とアナクルーシスについて	第 16 回： まとめ						
※手遊び、歌遊び、身体創作等は、その都度、課題に即した教材内容で行う。							
テキスト： 『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 コピー資料、その他。							
参 考 書： 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」							
評価方法・評価基準：実技テスト及び授業における課題評価							
① グループ課題による評価—幼児曲を創作表現及び、基礎リズムや拍子感を生かした教材研究							
② 個人課題による評価—リズム唱、リズム打ち、リズムステップ、ポリリズムの実技及びレポート課題							
③ 授業への参加度—授業においてグループ発表による評価が数回ある							
④ 授業態度—①～④を総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)				○	○		25
小テスト・ 授業内レポート	○		○		○		20
授業態度				○			10
受講者の発表			○		○		25
演 習					○		20
履修上の注意： 軽装、運動シューズで受講すること。							

授業科目名		1 単位 (0-2)	担当教員					
造形指導法 (Teach.Me.of Fo. Art for Children)			佐久本邦華・苅谷洋介					
授業の到達目標及びテーマ								
本講義では、子どもの発達と造形表現に関する知識をふまえ、子どもの遊びと想像力を豊かに展開し、それを表現へと繋げていくために必要な技術を習得することを目標とする。幼児の造形表現に関して、心理学や教育学など様々な分野の研究者の思想や、そこで提唱されてきた実践・方法論などについて学びながら、それらを体験・経験することで子どもと表現について考え、保育や幼児教育における造形の指導とは何かを実感してもらう事をテーマとする。								
授業の概要								
幼児造形教育の変遷を辿りながら、主にローエンフェルドが述べている子どもの描画の発達段階について学び、その後オートマチズムやプリンティングの技法を用いた演習を行う。また、触覚、聴覚、嗅覚を刺激しそれを視覚へと転換するような制作も行う。最終的にそれらの体験をもとに各自でテーマを決め、平面作品の制作を行う。 予習：レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。 復習：授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。								
授 業 計 画								
第 1 回：オリエンテーション-造形指導法の目的と内容について-		第 8 回：偶然性の色彩遊び（4） ーぬり広げとその具体的展開						
第 2 回：子どもの描画の発達段階についてーV. ローウェンフェルドの発達段階を中心としてー		第 9 回：偶然性の色彩遊び（5） ーモノプリントとその具体的展開						
第 3 回：触覚的アプローチ ーフィンガーペインティングとボディインティングの意義-		第 10 回：音と色彩 ーいろいろな音を色彩で表現する						
第 4 回：環境を写し取る-フロッタージュとその具体的展開-		第 11 回：匂いと色彩 ー匂いを色彩で表現する						
第 5 回：偶然性の色彩遊び（1） ーデカルコマニーとその心理的側面-		第 12 回：複数の技法を使用した平面表現（1） ーテーマを設定した平面作品の制作-						
第 6 回：偶然性の色彩遊び（2） ードリップングとその具体的展開-		第 13 回：複数の技法を使用した平面表現（2） ーテーマを設定した平面作品の制作-						
第 7 回：偶然性の色彩遊び（3） ーパチックとその具体的展開-		第 14 回：幼児の造形教育思想の歴史-ルソーからチゼック、デュイの思想と DBAE (Discipline Based Art Education)、レジオアプローチの動向について-						
		第 15 回：幼児の表現教育の問題-法則化運動・色彩描画診断法の問題を中心として-						
テキスト：テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布								
参考書：福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアートープロジェクトアプローチの実践からー』（小学館、2015）、横英子『保育をひらく造形表現』（萌文書林、2011）、平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房、2015）、無藤隆監修・浜口順子編者代表『領域表現ー事例で学ぶ保育内容ー』（萌文書林、2010）								
評価方法・評価基準：演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
試験 (中間・期末試験)								
授業内レポート	○							10
演習・小作品		○						40
最終作品						○		20
鑑賞・発表				○				20
授業態度					○			10
合計								100
履修上の注意：演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します。								

授業科目名		担当教員					
地域子育て支援実習Ⅰ／Ⅱ	1 単位	赤嶺優子・照屋建太・川西康裕・大城りえ・佐久本邦華・大山伸子・喜舎場勤子・山城眞紀子					
授業の到達目標及びテーマ							
子育てで家庭を取り巻く今日の課題を理解し、子育て・子育てを支援する内容及び方法を検討し実施する。							
授業の概要							
1・2 年次合同の8クラス編成で行い、各クラスを1名の専任教員が担当する。							
子育てで支援とは何かを理解し、クラスごとに子育て支援の内容・方法を検討する。学内あるいは学外で、地域子育て支援プログラムを実施する。							
予習：子育てで支援について、事前学習を行う。							
復習：実施内容を振り返り、子育てで支援について理解を深める。							
授 業 計 画							
第 1 回： 子育て支援とは① 第 2 回： 子育て支援とは② 第 3 回： 内容・方法の検討① 第 4 回： 内容・方法の検討② 第 5 回： 準備① 第 6 回： 準備② 第 7 回： 準備③ 第 8 回： 準備④		第 9 回： 準備⑤ 第 10 回： 準備⑥ 第 11 回： 準備⑦ 第 12 回： 準備⑧ 第 13 回： プログラム実施① 第 14 回： プログラム実施② 第 15 回： 反省					
テキスト：		参 考 書：					
評価方法・評価基準：授業態度、自己評価							
到達目標等 成績評価 試験 (中間・期末試験) 小テスト・ 授業内レポート	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
授業態度			○	○			60
受講者の発表							
演 習							
自己評価			○	○			40
履修上の注意：企画・立案・予算管理さらに対外的な交渉等も含まれるため、主体的に参加・活動を行うこと							

授業科目名	1 単位	担当教員																																																					
保育ボランティア体験 (Volunteer in Childcare Program)		大山 伸子																																																					
授業の到達目標及びテーマ 本学学生が地域の子どもと触れ合うことにより、座学では学びえない「子どもの生活環境」理解や「遊び」の体験等を深める。本体験は、大学における学びへの動機づけを目的とする。																																																							
授業の概要 下記のとおり実施する。 予習：①ボランティア先の情報を把握し、到達目標に合致したボランティア先に依頼する。 ②事前学習として決定したボランティア先の体験内容を十分に把握する。 復習：保育ボランティア体験を振り返り報告書にまとめる。																																																							
授 業 計 画 実習期間：①通年とする。（４月～１月まで） ②体験時間数は、３０時間以上とする。 実施方法：①本学に依頼があるボランティア要請と連携して実施する。 ②学生自身がボランティア先を確保して実施する。 対象施設：保育所・幼稚園・児童館・学童クラブ・施設実習配置対象の施設・子ども関連団体等 提 出 物：①保育ボランティア体験報告書 そ の 他：①学生課・学科事務室・担当教員への連絡・報告等を怠らない事。 ②体験時間数（３０時間以上）の確認を行う事。 ③オリエンテーション・中間報告会・全体報告会（後期）へ参加する。																																																							
テキスト： 必要な資料のプリント配付																																																							
参 考 書： なし																																																							
評価方法・評価基準： ①実習期間と時間は確保されているか ②事前学習が充実しているか ③中間報告会・全体報告会の出席及び報告書を提出しているか																																																							
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>20</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>60</td></tr></table>	到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート						○	20	授業態度								受講者の発表			○	○			20	演 習			○	○			60							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																
試験 (中間・期末試験)																																																							
小テスト・ 授業内レポート						○	20																																																
授業態度																																																							
受講者の発表			○	○			20																																																
演 習			○	○			60																																																
履修上の注意：事前オリエンテーション・中間報告会・全体報告会への参加は必須である																																																							

授業科目名	1 単位 (0—2)	担当教員
音楽Ⅰ (Music I)		大山伸子・糸洲のぶ子・神谷智子 古謝麻耶子・津田涼子

授業の到達目標及びテーマ：保育者として必要な音楽の基礎的技術（ピアノ・楽典・ソルフェージュ）を習得し、課題曲の終了を目指す。保育現場で音楽の能力が発揮できるよう自己研鑽する。

授業の概要：幼児の音楽的感性を育てるために、保育者として必要な音楽の基礎技能を修得する。ピアノ奏法と、楽典やソルフェージュなど基礎的な学習と運動して、ピアノの演奏能力の向上をはかる。授業形態は、一斉指導と個別指導を導入し、「教則本」では運指法、読譜等の初歩的なスキルを獲得しながら、簡単な童謡やマーチを弾けるようにする。また、「音楽Ⅱ」に継続して学習できるよう、基本的な音楽理論の理解とピアノ奏法の習熟を目指す（授業は予習型）。

予習：毎時間与えられた課題曲を次の授業までに練習して臨むこと。

復習：合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。

授業計画

1. 課題

(1) 楽典 ① 音域 ② 音程 ③ 音階 ④ 調と調号 ⑤ 和音

(2) ピアノ課題曲 ①基礎 教則本『大学ピアノ教本』№65 程度 必修課題曲

№ 1、3、4、5、9、11、13、17、21、24、25、27、30、32、33、37、40、43、45、49、51、53、56、60、63、65、他任意の曲

②幼児曲 必修課題曲（とんぼのめがね・思い出のアルバム）

③マーチ 必修課題曲（かけあしマーチ・手をたたきましよう・ピーマーチ）

④讃美歌 必修課題曲（誰が作ったの）等

⑤任意の曲

2. 授業計画

第1回：	オリエンテーション及びピアノ奏法のウォーミングアップ
第2回：	『大学ピアノ教本』 №1～4(№1～37) はグループレッスンで進める
第3回：	№5、9、11、及びハ長調の音階（1オクターヴ）、調名、1度、5度の和音（I、V）
第4回：	№13、17、21、及び属7度の和音（V ₇ ）
第5回：	№24、25、及び4度の和音（IV）
第6回：	№27、30、32、及びヘ長調の音階、調名（1オクターヴ）、及び1度、4、5、属7度の和音（I、IV、V、V ₇ ）
第7回：	№33、37、及びト長調の音階、二長調の音階（1オクターヴ）及び調名
第8回：	№40～（№40～№65）は個人レッスン（学生の習熟度によって課題達成曲が異なる）音階・調名（ハ・ヘ・ト・ニ）、及び和音（I・IV・V・V ₇ ）のまとめ

第9回：	№40～（№40～№65）個人レッスン、及びとんぼのめがね(幼児曲)
第10回：	№40～（№40～№65）、ピーマーチ（個人により曲の進度が異なる）
第11回：	№40～（№40～№65）、思い出のアルバム(幼児曲)（個人により曲の進度が異なる）
第12回：	№40～（№40～№65）、かけあしマーチ（個人により曲の進度が異なる）
第13回：	№40～（№40～№65）、手をたたきましよう（個人により曲の進度が異なる）
第14回：	讃美歌（誰が作ったの）、任意の曲
第15回：	『大学ピアノ教本』、童謡、マーチ、讃美歌、任意の曲のまとめ
第16回：	定期試験

テキスト：

- ・大学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社
- ・一宮道子編『ピアノマーチ集』全音楽譜出版社
- ・『新・幼児の音楽教育』朝日出版社
- ・コピー資料

評価方法・評価基準：①授業への参加度 ②授業態度 ③実技テスト ④楽典の簡単な筆記テスト。

※上記①～④を総合的に勘案して評価。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)					○		20
小テスト・ 授業内レポート					○		20
授業態度			○	○			20
受講者の発表					○		10
演習	○				○		30

履修上の注意：

毎時間レッスンカード票に自己の受講状況や進度を記録し提出する。毎時間与えられた課題曲を事前レッスン(自己学習)して授業に臨むこと。

授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。

授業の概要：「音楽Ⅰ」の基礎的な学習を踏まえ、幼児教育現場で活用度の高い童謡やマーチ等の幼児曲を中心に学習する。『大学ピアノ教本』の学習は、読譜力や奏法の技術がさらに高められ、童謡、マーチの学習は幼稚園、保育所における生活の歌、季節や行事の歌、遊び歌など、保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが数多くできるようにする。

授業形態は、習熟度に応じ個別指導を主として、予習型（自己学習）とする。

予習：毎時間与えられた課題曲を次の授業までに練習して臨むこと。

復習：合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。

※『大学ピアノ教本』は目安であり、進度は習熟度別

毎時間、レッスンカード票に自己の授業状況や進度を記録し提出する
毎時間与えられた課題曲を、事前レッスン（自己学習）して、授業に臨むこと
授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが上達方法であることを認識する

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員					
図画工作 I (Art and Craft Education I)		佐久本 邦華					
授業の到達目標及びテーマ							
図画工作 I では身近な自然や物の色や形、感触に親しむ経験をする事が大きな目標となる。日用品から食材まで子どもを取り巻く様々なマテリアルに加え、地域の民芸品や工芸品に使われた自然素材に実際に触れ、扱うことによって、身近な素材を体験・経験し、素材の特性に対し理解を深める。さらに、それらを幼児教育の場で活かせるよう活動案を提案する。							
授業の概要							
子どもの表現を理解し、指導する上で必要な基本的感性や表現力を、様々な造形作品の制作と鑑賞を通じて身につける。様々な素材・教材や用具の特性を理解し、保育士・幼稚園教諭としての実技的スキルの向上を目的とし、子どもたちの生活環境を取り入れた具体的な図画工作の活動案の提案を中心とする。							
予習：レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。							
復習：授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション-図画工作 I の目的と内容について-	第 9 回：沖縄の植物から色をとる一葉より						
第 2 回：表現の発達段階（復習）にそった造形あそびの実習における展開	第 10 回：沖縄の植物から色をとる一樹皮より						
第 3 回：紙を使用した表現活動とその展開	第 11 回：沖縄の植物から繊維をとる一糸						
第 4 回：水や氷、お湯（物質変化による造形）による表現活動とその展開	第 12 回：沖縄の植物から繊維をとる一紙						
第 5 回：食材を使用した表現活動とその展開	第 13 回：沖縄の土で遊ぶ・染める						
第 6 回：動きの観点からの簡単な玩具作り	第 14 回：実習時の活動案の検討と保育指導案の具体例案考察						
第 7 回：風の観点からの簡単な玩具作り	第 15 回：実習時の活動案の検討と保育指導案の具体例発表						
第 8 回：色の観点からの簡単な玩具作り							
テキスト：テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布							
参 考 書：福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアート—プロジェクトアプローチの実践から—』（小学館, 2015）、槇英子『保育をひらく造形表現』（萌文書林, 2011）、平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房, 2015）、無藤隆監修・浜口順子編者代表『領域表現—事例で学ぶ保育内容—』（萌文書林, 2010）							
評価方法・評価基準：演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							0
授業内レポート	○						10
演習・小作品		○					40
最終作品					○		20
鑑賞・発表			○				20
授業態度				○			10
合計							100
履修上の注意：演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員					
図画工作Ⅱ (Art and Craft Education II)		佐久本 邦華					
授業の到達目標及びテーマ							
主にグループでの共同制作活動を体験することで、子どもの特性の一つである「みたて」のイマジナリーな側面への理解を深める。また、子どもの遊びを豊かにし、子どもたちの感性やイメージを刺激し、彼らの体験と経験を表現へと繋げるような造形表現活動の展開、および環境構成について考える。							
授業の概要							
図画工作Ⅰの基礎的な活動をふまえ、図画工作Ⅱでは、子どもたちの「みたて活動」を活発にするような共同制作について考え、取り組む。また現場において、四季や地域の行事などの地域環境に根差した教材の取り入れ方を考える。 予習：レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。 復習：授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション -図画工作Ⅱの目的と内容について-	第 9 回：行事の視覚伝達 -光と影を楽しむ-						
第 2 回：「みたて」による立体表現(1) -雑材の収集とその造形性-	第 10 回：行事の視覚伝達 -光と影のクリスマスの壁面作り-						
第 3 回：「みたて」による立体表現(2) -制作活動-	第 11 回：行事の視覚伝達 -光と影のクリスマスの壁面作り-						
第 4 回：「みたて」による立体表現(3) -制作活動および提出-	第 12 回：日常を「異化」する表現活動(1) -異化とはなにか-						
第 5 回：「みたて」共同制作 -その意義と特性-	第 13 回：日常を「異化」する表現活動(2) -グループ制作-						
第 6 回：「みたて」共同制作 -グループで長い紙に描く実践- (1)	第 14 回：日常を「異化」する表現活動(2) -グループ制作-						
第 7 回：「みたて」共同制作 -グループで空間を飾る実践- (2)	第 15 回：日常を「異化」する表現活動(2) -グループ発表-						
第 8 回：「みたて」共同制作 -グループで空間を飾る実践- (3)							
テキスト：テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布							
参 考 書：福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアート—プロジェクトアプローチの実践から—』(小学館, 2015)、槇英子『保育をひらく造形表現』(萌文書林, 2011)、平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容「表現」』(ミネルヴァ書房, 2015)、無藤隆監修・浜口順子編者代表『領域表現—事例で学ぶ保育内容—』(萌文書林, 2010)							
評価方法・評価基準：演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							0
授業内レポート	○						10
演習・小作品		○					40
最終作品					○		20
鑑賞・発表			○				20
授業態度				○			10
合計							100
履修上の注意：演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員					
幼児体育 I (Gymnastics for Children I)		山城 眞紀子					
授業の到達目標及びテーマ 幼児期にふさわしい運動遊びの実際を通して、子ども理解を図り、保育者の役割を学ぶ。							
授業の概要 指導案を作成し模擬保育の方法を中心に、運動遊びの教材や環境の構成、展開の方法、指導上の留意点を学習する。 予習：授業計画に沿った運動遊びの教材の意義や特性等について学習し、体調を整え授業に備える。 復習：授業内容を通して、子ども理解や保育者の役割について振り返る。							
授 業 計 画							
第 1 回： 学習計画・幼児期の運動特性、指導案作成と分担	第 9 回： ラジオ体操、はとぽっぽ体操、他						
第 2 回： ・保育者に必要な力「体力」 ・集団行動 ・フォークダンスの基本ステップ	第 10 回： ボール遊び						
第 3 回： フォークダンス	第 11 回： なわ遊び						
第 4 回： 鬼ごっこ・ルール遊び（1）	第 12 回： かけっこ遊び、とびっこ遊び						
第 5 回： 鬼ごっこ・ルール遊び（2）	第 13 回： 大型遊具遊び（1）（マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台）						
第 6 回： 体操遊び、力くらべ遊び、	第 14 回： 大型遊具遊び（2）（マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台）						
第 7 回： 身近な素材で運動遊び	第 15 回： 遊具でごっこ遊び・まとめ						
第 8 回： ストーリーゲーム （お話から運動遊びへ）	※都合により内容や順序を変更することがある。						
テキスト： 特に指定しない 随時資料を配布。							
参 考 書： 幼児期運動指針ガイドブック（文部科学省：幼児期運動指針策定委員会）							
評価方法・評価基準：授業への参加度、課題発表、実技テスト、レポートなどを総合して行う。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度			○	○	○		50
受講者の発表	○	○	○		○		30
演 習							
その他							
履修上の注意：服装、安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。							

授業科目名	1 単位 (0－2)	担当教員					
幼児体育Ⅱ (Gymnastics for Children II)		山城 眞紀子					
授業の到達目標及びテーマ 保育者としての基本的運動技能の習得を目指しつつ、遊具の特性における補助法や安全、そして戸外で積極的に遊ぶ意義や方法を理解する。 心や体で感じたことを自分の感情の趣くままに体で動いて表現を行う子どもたちの身体表現についての指導の内容や方法について理解する。							
授業の概要 大型移動遊具の基礎技能の習得、補助法や安全について学ぶ。 戸外の環境を活用する運動遊びについて実際に企画し、展開する。 いろいろな動きの体験、歌やリズムにのって動いたり、作品のまとめ方など基礎的な知識や技能を習得する。 予習：授業計画に沿った課題について、資料等に目を通し、体調を整え授業に臨む。 復習：授業内容を通して、指導技術を高める工夫の観点から振り返りを行う。							
授 業 計 画							
第 1 回： 学習計画、実習を通しての幼児の運動と環境 保育者に必要な力「表現力」	第 9 回： 伝承遊びで遊ぼう (2) トランポリン (2)						
第 2 回： 課題研究① ジャンケン遊び	第 10 回： 沖縄のリズムと動きで遊ぼう						
第 3 回： 課題研究② なわ遊び	第 11 回： 身体表現で遊ぼう (1) 幼児の身体表現 (0 歳から 6 歳まで)						
第 4 回： 課題研究③ お手玉遊び	第 12 回： 身体表現で遊ぼう (2)						
第 5 回： 歩け歩け園外保育の企画と展開	第 13 回： 作品づくり (1)						
第 6 回： 公園でミニ運動会の企画と展開	第 14 回： 作品づくり (2)						
第 7 回： わらべ歌で遊ぼう	第 15 回： 作品づくり (3)・まとめ						
第 8 回： 伝承遊びで遊ぼう (1) トランポリン (1)		* 都合により、内容や順序を変更することがある。					
テキスト： 特に指定しない。 随時資料配布。ビデオ・DVD 教材。							
参 考 書： 幼児期運動指針ガイドブック (文部科学省：幼児期運動指針策定委員会)							
評価方法・評価基準： 授業への参加度、発表、実技テスト、レポートなどを総合して行う。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○						20
授業態度			○	○	○		50
受講者の発表	○		○	○	○		30
演 習							
その他							
履修上の注意： 服装、安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。							

授業科目名	1 単位 (0－2)	担当教員					
幼児の生活 (Life Skill)		島袋浩子・照屋建太					
授業の到達目標及びテーマ 『私達の暮らしと保育』を考え、社会人として、保育者としてのマナーを身につける。さらに、子どもの生活習慣の自立について学ぶ。知識理解として幼児期の基本的な生活習慣について理解する。乳幼児期の発達と生活技能について関心を持つ。また、自らの生活を振り返り、自身の資質を高める。							
授業の概要 子ども自身が、人間として生きる力の基礎を育むための指導者としての在り方を学ぶ。社会人としてのマナー・保育者としての技能・子どもの生活技能などについて理論や実技等事例を通して学んでいく。 予習：講義前に予告したテキスト部分を読み、理解しておく。 復習：講義の中で話した内容や実践を復習し、理解をさらに深めること。							
授 業 計 画							
第 1 回： 講義概要説明	第 9 回： はさみや箸の持ち方等						
第 2 回： 乳幼児期の子どもの生活「基本的生活習慣」①食事の習慣	第 10 回： 課題発表						
第 3 回： 乳幼児期の子どもの生活「基本的生活習慣」②睡眠の習慣	第 11 回： 園だより・学級だよりの作成						
第 4 回： 乳幼児期の子どもの生活「基本的生活習慣」③排泄の習慣	第 12 回： 折り紙の魅力について						
第 5 回： 乳幼児期の子どもの生活「基本的生活習慣」④着脱衣の習慣	第 13 回： 廃品を利用した製作①						
第 6 回： 乳幼児期の子どもの生活「基本的生活習慣」⑤清潔の習慣	第 14 回： 廃品を利用した製作②						
第 7 回： 乳幼児期の子どもの生活「社会的生活習慣」	第 15 回： 伝承遊び						
第 8 回： 常識マナー・保育現場での心構え	第 16 回： まとめ・講義内試験						
テキスト：谷田貝公昭 監修『6 歳までのしつけと子どもの自立』合同出版							
参 考 書：厚生労働省「保育所保育指針」、文部科学省「幼稚園教育要領」 その他、必要に応じて紹介する。							
評価方法・評価基準： 評価は、提出物、レポート等で行う。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					4 0
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		3 0
授業態度			○	○			1 5
受講者の発表			○	○			5
演 習	○		○		○		1 0
その他							
履修上の注意：課題の提出については、様式と期限を守ること。							

授業科目名		1 単位 (0-2)	担当教員				
飼育栽培 (Feeding and Growing)			照屋 建太				
授業の到達目標及びテーマ							
この講義では、飼育や栽培を通して、自然と親しみ、生き物の「命」の大切さについて学ぶ。近年、保育活動の中で日常化されている飼育や栽培の基本について学び、実践し習得する。また、生き物の「命」に対する責任感を持つ。							
授業の概要							
“生命”への慈しみを育てる保育が強調される中、保育者は小動物・植物への関わりが十分とは言えない。また、生き物を育てる“場”が減り、子どもたちは生物の命の尊さを知る機会が少なくなっている。そこで、実際に生き物の飼育活動を行う。							
予習：グループで飼育や栽培する生き物についてしっかり調べ、わからないことは講義内に質問する。							
復習：生き物の飼育や栽培をしっかり行う。観察し、ファイルに記録する。							
授 業 計 画							
第 1 回： 講義概要説明 グループ分け		第 9 回： 飼育栽培活動⑤					
第 2 回： 基礎学習①（植物）、 レポートの書き方		第 10 回： 飼育栽培活動⑥					
第 3 回： 飼育栽培実習①		第 11 回： 基礎学習④（土壌）					
第 4 回： 飼育栽培実習②		第 12 回： レポート作成①					
第 5 回： 基礎学習②（動物）		第 13 回： レポート作成②					
第 6 回： 飼育栽培実習③		第 14 回： レポート作成③					
第 7 回： 飼育栽培実習④		第 15 回： レポート提出とグループ発表					
第 8 回： 基礎学習③（気象）							
テキスト：沖縄生物教育研究会編『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版 その他、必要に応じてプリントを配る。							
参 考 書：岡田 要 監修『完全図解 生きものの飼ひ方全書』東陽出版 有沢 重雄『飼育栽培図鑑 はじめて育てる・自分で育てる』福音館書店 その他、必要に応じて紹介する。							
評価方法・評価基準：評価は、レポートとグループ発表で行う。							
成績評価 到達目標等 試験 (中間・期末試験)	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
小テスト・ 授業内レポート	○	○					15
授業態度			○	○			40
受講者の発表	○	○	○		○		15
演 習				○			30
履修上の注意：講義には汚れても良い服装、動きやすい服装で参加すること。 レポートは、様式と期限を必ず守ること。遅れた場合は、受け取らない。 休暇期間もグループで責任を持ち、生き物の世話をすること。 欠席した場合は、講義内容に関するテーマを自ら設定し、レポート（1200 字）を提出すること。							

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員				
幼児の言葉 (Methods of Language Development)			山盛 淳子				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：乳幼児がことばを獲得していく過程について説明できる 保育者の基本的な姿勢や援助のあり方について事例を踏まえて説明できる。							
思考判断：言葉を豊かにする教材を選択できる							
関心意欲：ことばの機能を理解しことばを育む環境について関心を持つ。							
態 度：豊かなことばの感性と表現力を身につける							
授業の概要：							
乳幼児期は言葉獲得の重要な時期であり、ことばは生活の中で獲得される為幼児の生活を知り、発達の筋道を学ぶことは幼児の発達を保障する保育者として最も肝要である。本授業では「ことばの発達過程」「生活の中のことば」「思いの伝えあい（互いの関係性）」等を軸に乳幼児のことばを育てる環境やことばの育ちを助ける保育者の関わりについて理論学習や実践的な基礎技術について学ぶ。							
予習：事前に教科書を読み、授業内容をイメージしておく（特に乳幼児の発達段階）							
復習：課題、まとめを読み、内容をより理解し、次の授業と関連づけができるよう努める							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション 「言葉とは？」講義の概要		第 9 回：幼稚園保育園での言葉の生活					
第 2 回：言葉をめぐるワークショップ		第 10 回：言葉を育てる人的環境					
第 3 回：言葉の育つ道すじ		第 11 回：言葉での関わりに配慮を要する子供達					
第 4 回：幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「言葉」		第 12 回：言葉をめぐる相談と対応					
第 5 回：乳幼児の発達と言葉①		第 13 回：言葉を育てる児童文化と地域文化①					
第 6 回：言葉の前の言葉		第 14 回：言葉を育てる児童文化と地域文化②					
第 7 回：言葉の芽生え		第 15 回 まとめ					
第 8 回：乳幼児の発達と言葉②		第 16 回 定期試験					
テキスト：保育内容言葉 小田豊著 北大路書房 ・幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書							
評価方法・評価基準：課題提出 期末テスト・授業への参加度、態度による総合評価							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (期末試験)	○	○		○			30
課題、実技、演習への 取り組み	○		○	○			30
授業態度	○		○	○			15
受講者の発表			○	○			10
演 習	○		○	○			15
その他							
履修上の注意：提出物は期限厳守、実技は必須・保育科としての自覚に基づき自身が言葉を豊かに話せる様に努める							

授業科目名		2単位 (2-0)	担当教員				
保育者論 (Nursery Teachers)			赤嶺 優子				
授業の到達目標及びテーマ							
知識理解：保育者の役割と倫理、制度的位置づけについて理解をする。							
関心意欲：保育者の専門職的成長について関心や意欲を示し、自己の成長に繋げる。							
思考判断：保育者の専門性について考察し、理解する。							
態度：保育者の協働について理解する。							
授業の概要							
保育者の役割や倫理、制度的位置づけについて理解をする。保育の知識を深め、保育者の役割、専門性、保育をすることの意義について学び、資質・能力について理解を深める。また、保育・教育問題を把握し現状と課題を認識する。保育者の協働、保育者の専門職的成長について理解を深める。							
予習：保育者の専門性や資質・能力等について、また、家庭や地域社会の保育・教育課題の事前学習を課す。							
復習：復習を通して、講義内容の理解を深めること。							
授 業 計 画							
第 1 回：保育者になるということ		第 9 回：保育者の協働① (保育・教育問題)					
第 2 回：保育者の役割と倫理		第 10 回：保育者の協働② (専門職間及び専門機関との連携)					
第 3 回：保育者の制度的位置づけ		第 11 回：保育者の協働③ (保育者及び地域社会との協働)					
第 4 回：保育者の専門性① (養護と教育)		第 12 回：保育者の専門職的成長① (資質・能力)					
第 5 回：保育者の専門性② (知識・技能及び判断)		第 13 回：保育者の専門職的成長② (専門性の発達)					
第 6 回：保育の省察		第 14 回：保育者の役割と専門性(協同研究) ①					
第 7 回：特別講義		第 15 回：保育者の役割と専門性(協同研究) ②					
第 8 回：保育課程・教育課程による保育 の展開と自己評価		第 16 回：定期試験					
テキスト：矢藤誠慈朗・天野珠路『保育者論』中央法規							
参 考 書：文部科学省『幼稚園教育要領解説』2008 年 全国社会福祉協議会『幼保連携型認定子ども園教育・保育を読む』							
評価方法・評価基準：試験・課題・授業内レポート・協同研究内容及び発表等を総合的に評価する。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○				60
課題 授業内レポート	○	○	○				30
授業態度							
協同研究内容及び発表	○	○	○				10
演習							
その他							
履修上の注意：特別講義は、日程の変更もあり得る。							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員																																																	
保育課程総論 (Curriculum for Child Care)			赤嶺 優子																																																	
授業の到達目標及びテーマ																																																				
知 識 理 解：保育課程・教育課程の意義と役割を理解し、理論と実践の関係を深める。																																																				
保育課程・教育課程の編成と指導計画の作成について理解する。																																																				
関 心 意 欲：保育内容と質の向上に資する保育の計画と評価について理解する。																																																				
思考判断：幼児の発達に応じた保育内容を勘案し、指導計画を作成する。																																																				
態 度：計画・実践・省察・評価・改善等の課程の全体構造を能動的に捉えた保育の在り方を理解する。																																																				
授業の概要																																																				
保育課程、教育課程、保育計画の意義及び編成の方法について知る。幼稚園や保育所（園）の保育内容などの保育の基本を理解した上で、保育実践における指導計画（日案、部分案）の立案の仕方を身につける。																																																				
予習：教材研究を踏まえ部分案が立案できるように、対象年齢、発達段階を踏まえて準備をしておくこと。																																																				
復習：指導の計画と評価について、保育・教育課程、保育内容等を踏まえ、理論と実践の関係を深めること。																																																				
授 業 計 画																																																				
第 1 回：オリエンテーション・ 保育の基本・他		第 9 回：保育の省察と記録																																																		
第 2 回：カリキュラムの基礎理論		第 10 回：保育の反省と自己評価																																																		
第 3 回：保育課程・教育課程と指導計画 の意義		第 11 回：幼稚園教育の基本と教育課程の編成																																																		
第 4 回：保育所指針と幼稚園教育要領		第 12 回：指導計画の実際の展開と実践 「部分案」①																																																		
第 5 回：指導計画と評価の意義		第 13 回：指導計画の実際の展開と実践 「部分案」②																																																		
第 6 回：指導計画の作成と留意事項 （ビデオ視聴：日案作成）		第 14 回：計画、実践、省察、評価、改善の 過程の循環による保育の質の向上																																																		
第 7 回：領域と保育内容、環境構成		第 15 回：保育の計画の再編成 保育要録と幼稚園幼児指導要録																																																		
第 8 回：指導計画の作成 （ビデオ視聴：部分案作成）		第 16 回：定期試験																																																		
テキスト：																																																				
参 考 書：文部科学省『幼稚園教育要領解説』2008 年																																																				
全国社会福祉協議会『幼保連携型認定子ども園教育・保育を読む』																																																				
評価方法・評価基準：試験・課題・日案/部分案作成・指導計画の展開と実践発表等で総合的に評価する。																																																				
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>6 0</td></tr><tr><td>課題 日案・部分案作成</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>3 0</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>指導計画の展開と実践 発表</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>1 0</td></tr></table>					到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								試験 (中間・期末試験)	○	○					6 0	課題 日案・部分案作成	○	○	○	○	○		3 0	授業態度								指導計画の展開と実践 発表	○	○			○		1 0
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																													
成績評価																																																				
試験 (中間・期末試験)	○	○					6 0																																													
課題 日案・部分案作成	○	○	○	○	○		3 0																																													
授業態度																																																				
指導計画の展開と実践 発表	○	○			○		1 0																																													
履修上の注意：																																																				

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員					
保育指導法ゼミ (Introduction to teaching methods in ECCE)			赤嶺優子・糸洲理子 松田恵子・山城いと子					
授業の到達目標及びテーマ								
知識理解：保育の目標、領域と保育内容について理解する。保育所保育指針の各章のつながりを読み取り保育の全体な構造を理解する。								
思考判断：保育内容を視野に入れた教材を研究し、技能発表をする。								
関心意欲：幼児の保育の特徴に関心を持ち、生活や遊びを通しての総合的に指導することに関心を持つ。								
態 度：保育所（園）の1日の流れを観察し、保育記録を作成する。								
授業の概要								
保育の目標、子どもの発達、保育の内容を関連付けて、保育内容と子どもの生活や遊びを通して総合的に指導することを学ぶ。また、保育課程・教育課程と指導計画との関連性を理解する。ビデオ視聴や保育所（園）見学を通して、保育所（園）、幼稚園の一日を把握し、保育内容や保育者の役割について学ぶ。								
予習：保育の目標、領域と保育内容について理解を深め、保育内容を視野に入れた教材を研究し、技能発表内容の事前学習を課す。								
復習：保育の目標・子どもの発達・保育内容を関連付けて保育の全体的構造の理解を深める。								
授 業 計 画								
第1回： 保育の基本と保育内容		第 9回： 生活や発達の連続性に考慮した保育						
第2回： 保育の目標、領域と保育内容		第10回： 家庭・地域・小学校との連携を踏まえた保育						
第3回： 保育課程と教育課程 保育の全体的構造		第11回： 特別な支援を要する子どもの保育						
第4回： 保育所（園）のVTR視聴 子どもの発達と保育内容		第12回： 保育者としての子どもとの関わり方						
第5回： 個と集団の発達と保育内容		第13回： 保育記録の視点 （環境・保育の流れ・保育者の援助）						
第6回： 養護と教育が一体的に展開する保育		第14回： 保育所（園）見学						
第7回： 幼稚園のVTR視聴 環境を通して行う保育		第15回： 保育内容と子どもとのかかわり						
第8回： 遊びにおける総合的な保育		第16回： 定期試験						
テキスト： 監修：公益財団法人児童育成協会 編集：石川昭義・松川恵子『保育内容総論』中央法規								
参 考 書： 文部科学省『幼稚園教育要領』・全国社会福祉協議会『幼保連携型認定子ども園教育・保育を読む』								
評価方法・評価基準：試験、小テスト、保育所（園）見学記録、保育技能計画作成、保育技能発表等で総合的に評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)		○	○					60
小テスト・ 保育所（園）見学記録・ 保育技能計画作成				○	○	○		20
保育技能計画作成		○	○					10
保育技能発表		○	○	○	○	○		10
演 習								
その他								
履修上の注意：保育技能発表は、3回目以降、3～4人ずつ行う。								

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
保育カウンセリング (Counseling for Child Care)		大城りえ・玉城弘美					
授業の到達目標及びテーマ 保育カウンセリング（保育相談支援）の意義と方法論について理解する。さらに保育所等における保護者支援の実際について理解する。							
授業の概要 保育カウンセリング（保育相談支援）の意義を理解し、保護者支援の基本について学ぶ。 さらに、事例検討（グループ討議）を通して保育所等での子ども・保護者支援の実際について学ぶ。 予習：事例を事前に読むこと 復習：事例検討を振り返り、応用できるように努めること							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション、保育カウンセリング（保育相談支援）の意義	第 9 回：保育所等での具体的な事例②						
第 2 回：保育カウンセリング（保育相談支援）の原則	第 10 回：保育所等での具体的な事例③						
第 3 回：保育カウンセリング（保育相談支援）の基本①	第 11 回：保育所等での具体的な事例④						
第 4 回：保育カウンセリング（保育相談支援）の基本②	第 12 回：保育所等での具体的な事例⑤						
第 5 回：保護者支援の内容	第 13 回：保育所等での具体的な事例⑥						
第 6 回：保護者支援の方法と技術	第 14 回：関係機関等との連携と協力						
第 7 回：支援の記録について	第 15 回：支援になる連絡帳の書き方						
第 8 回：保育所等での具体的な事例①	第 16 回：期末試験						
テキスト：小林育子『演習 保育相談支援』 萌文書林							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：期末試験、授業内レポート（毎時間提出）、授業態度、演習（グループ討議）発表							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
試験 （中間・期末試験）	○	○	○				4 0
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				1 5
授業態度			○	○			1 0
受講者の発表	○	○	○				1 0
演 習	○	○	○				2 5
その他							
履修上の注意：グループ討議を積極的に行うこと。							

授業科目名		2単位 (0-2)	担当教員				
保育・教職実践演習（幼稚園）			赤嶺優子・照屋建太・川西康裕・大城りえ・佐久本邦華・大山伸子・喜舎場勤子・山城 真紀子				
授業の到達目標及びテーマ							
自己の課題を認識し、保育者として求められる最小限必要な資質能力を形成する。							
授業の概要							
これまでの講義・演習、さらに実習を通して得た知識技能を統合し、実践力のある保育者としての資質形成を目的とする。							
保育者として必要な①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児理解や学級経営、④保育内容の指導力などを、演習を通して、具体的に学んでいく。							
予習：自己の知識・技能を振り返り、自己課題を確認すること							
復習：授業内容を再確認し、理解に努めること							
授 業 計 画							
	内 容	担 当					
第 1 回：	イントロダクション・これまでの学修の振り返りについての講義・グループ討論	全教員					
第 2 回：	飼育栽培活動のポイントとその展開	照屋建太					
第 3 回：	幼稚園現場における保育者の資質と実践力および造形表現教育	佐久本邦華					
第 4 回：	幼児の豊かな表現力を育てる音楽指導法（演習・グループ討議）	大山伸子					
第 5 回：	健やかな成長をめぐる課題と指導法（グループ討議）	山城真紀子					
第 6 回：	特別講義：保育者の専門性とは	外部講師					
第 7 回：	エピソード記録とは	全教員					
第 8 回：	事例研究会①	全教員					
第 9 回：	事例研究会②	全教員					
第 10 回：	事例研究会③	全教員					
第 11 回：	幼児理解や学級経営についての講義・グループ討論	赤嶺優子					
第 12 回：	幼児理解とカウンセリングマインド（ロールプレーイング）	大城りえ					
第 13 回：	保育者の資質向上ならびに組織開発のためのソーシャルグループワーク演習	川西康裕					
第 14 回：	保育者の使命感・責任感・教育的愛情	喜舎場勤子					
第 15 回：	資質能力の確認、まとめ	全教員					
テキスト： 授業内容に応じて資料を配布		参 考 書： 適宜に提供					
評価方法・評価基準： 小テスト、事例研究の資料作成・発表・レポート、自己評価表							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○	○			80 (10×8)
自己評価表	○		○	○			10
事例研究資料作成	○	○	○				10
事例研究発表および事後 の学び	○	○	○				10
保育教職実践演習の まとめ	○	○	○				10
合計							120 点満点
履修上の注意：							

授業科目名		担当教員						
教育実習（幼稚園） (Pract. Teaching in Kindergarten)	5単位	喜舎場 勤子						
授業の到達目標及びテーマ								
知識理解：幼稚園教育の特徴を理解する。保育内容・方法、保育者の役割、子ども理解等を学ぶ。 思考判断：使命感や倫理観を育み、他者と協力しながら主体的に保育に携わる。 関心意欲：子どもの言動からその子の内面理解に努めると共に、他者や遊具との関係にも関心を持つ。 教師の子どもへのかかわり方を通して、その意図を学ぶ。 態度：自己管理に努める。日常の業務を通して指導力や環境構成の力を身につける。								
授業の概要								
本学で学んだ専門的知識や技術を教育実習(120 時間)の実践を通し教師となる自覚を養う。 予習：与えられた課題を準備し出席する。 復習：学習した知識・技術の要点を整理し、実習の場で活用できるようにする。								
授 業 計 画								
・実習園でのオリエンテーション ・実習園の方針についての一般的理解 ・幼児理解、人的・物的環境等の理解 ・保育内容の全般的理解 ・幼児とのかかわり ・保育内容と保育形態の理解 ・教育実習の段階 1)見学・観察実習 2)参加・部分実習 3)部分・責任実習 ・実習園の諸行事への参加 ・実習日誌はその日に記入し翌朝提出 ・指導案は、1 週間前に提出 1.実習指導に出席し、教育実習の一環として受講（実習訪問報告書・調査書・誓約書・他・提出物含む） 2.中間協議は、実習期間中の土曜日に本学にて実施。実習の一環として参加（出席カード提出） 3.実習終了後の反省会に参加（出席カード提出） 4.実習日誌は実習終了後、本人が園から受け取り本学へ提出 5.実習終了後は、実習レポートを本学に提出 6.幼稚園実習終了後の評価表（幼稚園教育実習）自己評価の提出								
テキスト： 幼稚園教育要領解説書、その他必要な資料は担当者が準備する。								
参 考 書：								
評価方法・評価基準：								
学内の実習指導状況（事前・事後指導および中間協議・反省会等を含む）（40%）、実習園からの評価資料（60%）により評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート								
授業態度								
受講者の発表								
演 習								
その他（提出物含む）	○	○	○	○	○	○	○	100

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
視聴覚教育 (Audio Visual Education)		赤嶺 優子					
授業の到達目標及びテーマ 視聴覚教材の意義を理解し、保育内容を意識した、視聴覚教材を製作する。また、教材の演出（演じ方・他）方法を研究し教育・保育実践の場で自信を持って演出（演じ方・他）できるようにする。							
授業の概要 保育における「視聴覚教材」の意義を理解する。幼児の豊かな感性を育くむための教材を研究し保育内容を意識した視聴覚教材を製作する。また作品発表を経験することで演出方法の素養を身につける。 予習：製作内容を事前に準備をしておくこと。 復習：必要に応じて作品を修正し視聴覚教材の質を高める。また、演出方法を工夫する。							
授 業 計 画							
第 1 回： 視聴覚教材の意義について	第 9 回： 劇化教材 エプロンシアター・パネルシアター・他						
第 2 回： にこにこシアター（誕生会）	第 10 回： 劇化教材 エプロンシアター・パネルシアター・他						
第 3 回： にこにこシアター（誕生会）	第 11 回： 劇化教材 エプロンシアター・パネルシアター・他						
第 4 回： フラット教材 軍手人形・ペープサート・他	第 12 回： * 作品発表						
第 5 回： フラット教材 軍手人形・ペープサート・他	第 13 回： ディスプレイ教材・他						
第 6 回： フラット教材 軍手人形・ペープサート・他	第 14 回： * 作品発表						
第 7 回： フラット教材 軍手人形・ペープサート・他	第 15 回： まとめと視聴覚教材（作品）提出						
第 8 回： * 作品発表							
テキスト： 必要に応じてプリントを配布する。							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：視聴覚教材(ディスプレイを含む 4 点)、作品発表、課題（教材観・演出方法の研究）等で総合的に評価する。							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
視聴覚教材			○	○	○		6 0
視聴覚教材づくり	○	○	○				2 0
受講者の作品発表		○	○		○		1 0
課題	○	○					1 0
演 習							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
視聴覚教育 (Audio Visual Education)		真栄城 かの子					
授業の到達目標及びテーマ							
視聴覚教材について理解を深め、自ら表現できるようにする。教育・保育現場で自信を持って子どもに接し場面に応じた教材の活用ができるようにする。							
授業の概要							
保育における「視聴覚教材」の意義について理解する。 幼児の豊かな感性を育くむための教材をいくつか取りあげ、製作をとおして保育技術を習得する。 また実践発表を経験することで表現者としての素養を身につける。 予習：配布資料を読み、内容を理解しておく。多くの絵本を読み、発表や制作の内容を考え準備する 復習：授業の内容を振り返り、理解を深める。制作については期日内に作品を完成させ、実演の練習を行う							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション 児童文化とは何か	第 9 回：パネルシアターとエプロンシアター について（特性と演じ方実演）						
第 2 回：ペープサートについて 年少向け作品①	第 10 回：パネルシアターとエプロンシアター について						
第 3 回：ペープサート制作 年少向け作品①	第 11 回：作品実践発表（パネルシアター）						
第 4 回：作品実践発表（ペープサート）	第 12 回：エプロンシアター制作 年長向け作品③						
第 5 回：絵本について （特性と読み聞かせ実演）	第 13 回：エプロンシアター制作 年長向け作品③						
第 6 回：絵芝居について（特性と演じ方実演）	第 14 回：作品実践発表（エプロンシアター）						
第 7 回：軍手人形をつくろう 年少向け作品②	第 15 回：身近な素材を使って楽しい劇遊び まとめと作品提出						
第 8 回：作品実践発表（軍手人形）							
テキスト： 必要に応じてプリントを配布する。							
参 考 書：「ことばと表現力を育む児童文化」（勝泰介ほか編、萌文書材） 「演習児童文化」（小川清美編、萌文書材）							
評価方法・評価基準：							
授業への参加度・受講態度・提出物・製作作品(ディスプレイを含む 4 点)課題発表等を総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
授業内レポート	○	○					20
授業態度			○	○			10
受講者の発表					○		30
作品提出					○		40
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
保育メディア研究 (Pre-Sch. Educ. Media Studies)		米盛 徳市

授業の到達目標及びテーマ

- ・メディア活用を通じて、保育の質を向上させようと思う研究心・使命感・倫理観を高める。
- ・メディアに対する苦手意識を克服し、メディア活用に意欲的な人間関係を育む。
- ・保育現場におけるメディア活用の実際を知り適切な文書作成やプレゼンテーションが出来るようになる。

授業の概要

保育園や幼稚園では、①ペイント（お絵かきソフト）を使って、子どもたちの視覚に訴える様々な表示を行ったり、②パワーポイント（プレゼンテーションソフト）を使って、卒園式で1年間の子どもの園生活の様子や研究発表等のプレゼンテーションを行ったりしている。③絵本作成を行う。

これからの保育士や幼稚園教諭には、ワープロやお絵かきソフト及びプレゼンテーションソフト等を活用できる能力が求められている。そこで、本講義においては、保育園や幼稚園で求められている上述の内容について、すべての学生ができるようにすることを目指している。成果の一部を学内の学生及び教員に公開する。

予習：本講義の専用サイトにアクセスし過去の作品集を閲覧しながら自らのオリジナル作品を考案する。

復習：随時更新される他の作品を閲覧し、新しいアイデアを取り入れ作品の変更を行う。

授 業 計 画

第1回：	保育園・幼稚園におけるマルチメディア活用の実態と今後の方向性	第8回：	ペイント（お絵描きソフト）で笑っている自画像を描き、パワーポイントに貼り付ける操作
第2回：	ワード（ワープロソフト）における画像のコピーと貼付・テキストボックスの活用	第9回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅠ
第3回：	ワードを活用した「学級便り」の作成	第10回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅡ
第4回：	パワーポイントの基本的な操作方法	第11回：	自分が理想とする幼稚園の園庭で遊んでいる場面をペイントで描くⅢ
第5回：	パワーポイントによる自己紹介プレゼンテーションの作成	第12回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅰ
第6回：	アニメーション機能を取り入れた自己紹介プレゼンテーションの作成	第13回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅱ
第7回：	アニメーション機能を取り入れた「母への感謝の手紙」プレゼンテーションの作成	第14回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅲ
		第15回：	ペイントを使用した絵本作成Ⅳ

テキスト：本講義用のホームページに随時必要な情報を提示する。予習や復習に役立てる。

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
授業態度				○			15%
受講者の発表							
演習・課題	○	○	○	○	○		85%
その他							

※正当な理由なくして4回以上欠席した場合は作品の提出の如何に関わらず単位は認められない。

履修上の注意：保育士や幼稚園教諭を目指している学生は、できるだけ履修することが望ましい。

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員					
相談援助（＝社会福祉援助技術） (Social Work Practice Skills)		砂川 亜紀美					
授業の到達目標及びテーマ：保育士に必要な「社会福祉に関する相談援助」の知識技術の習得							
授業の概要							
社会福祉に関わる基礎知識と実習経験を基にしながら、相談援助の方法と技術を学び活用する意義は何かを検討した上で、その概要、効果的な展開のあり方を事例と共に考えたい。							
予習：①配布する資料の疑問点（用語等）について調べておくこと							
②日頃から福祉に関するニュースに目を配り、自分なりの考えを持っておくことが望ましい。							
復習：教科書や配布資料を見直し、授業での疑問点については次回の授業時に質問するなど、理解に努めること。							
授 業 計 画							
第 1 回：	授業への導入と相談援助の理論と意義および機能	第 9 回：	相談援助の評価				
第 2 回：	相談援助の発展史	第 10 回：	関係機関との協働・専門職との連携				
第 3 回：	現代日本における保育士の役割とソーシャルワーク	第 11 回：	多様性の理解（DVD）①				
第 4 回：	相談援助の視点	第 12 回：	多様性の理解（DVD）②				
第 5 回：	相談援助の対象・過程	第 13 回：	社会資源の活用、調整、開発				
第 6 回：	相談援助の技術とアプローチ	第 14 回：	事例分析				
第 7 回：	相談援助の計画	第 15 回：	ロールプレイ等				
第 8 回：	相談援助の記録	第 16 回：	試験・まとめ				
テキスト： 特に指定せず、レジメや資料などは講師が印刷して配布する。							
参 考 書： 授業中に必要に応じて随時紹介する。							
評価方法・評価基準：授業への参加度、授業態度、小レポート、試験等をすべて取り入れた評価をする。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					50
小テスト・ 授業内レポート	○		○		○		10
授業態度			○	○			20
受講者の発表					○		10
演 習			○	○			10
その他							
履修上の注意：							
演習を取り入れた形で授業を進めるので前向きで積極的な参加（意見や質問の表明）を求めたい。							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
社会的養護 (Principles of Protective Care)		照屋 徹					
授業の到達目標及びテーマ							
・ 社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 ・ 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ・ 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。 ・ 施設養護における家庭支援の重要性とその実践方法について理解する。							
授業の概要							
社会的養護の場としての児童福祉施設において、児童の養護に従事するための必要な専門的知識と技術について体系的に学び、さらに施設養護における専門職としての在り方について考察する。							
予習：レジュメを事前によく読み毎回授業に出席してください							
復習：講義内容をより理解し、応用できるように努めること							
授 業 計 画							
第 1 回： 子どもの社会的養護の基本的な考え方	第 9 回： 施設養護の職員の専門性						
第 2 回： 欧米における児童福祉観の変遷	第 10 回： 施設養護における基本的な援助技術						
第 3 回： 日本における児童福祉観の変遷	第 11 回： 個別支援援助計画の作成（Ⅰ）						
第 4 回： 養育環境に問題を抱える子どものための施設	第 12 回： 個別支援援助計画の作成（Ⅱ）						
第 5 回： 心身に障がいを抱える子どものための施設	第 13 回： 虐待問題と児童養護						
第 6 回： 情緒、行動に問題を抱える子どものための施設	第 14 回： 今後の課題と展望						
第 7 回： 社会的養護の制度と法体系	第 15 回： まとめ						
第 8 回： 児童福祉を支える主な法律	第 16 回： 定期試験						
テキスト： 松本峰雄編著「子どもの養護」 建帛社							
参 考 書： 特になし							
評価方法・評価基準： レポート、期末テスト、授業態度等によって行う。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○						80
小テスト・ 授業内レポート			○				10
授業態度			○				10
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	1 単位 (0－2)	担当教員					
保育の心理学（＝教育心理学） （Educational Psychology）		大城りえ・中野久美子					
授業の到達目標及びテーマ							
・子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。 ・生活と遊びを通して、子どもの経験の重要性や学習の過程を理解する。 ・保育現場における発達援助について学ぶ。							
授業の概要							
子どもの発達と保育実践について学ぶ。また、生活と遊びを通して子どもたちが経験していることや学習の過程を理解する。さらに、事例検討（グループ討議）を通して子どもたちの発達を促す具体的な発達援助について学ぶ。 予習：テキストの該当箇所を、事前に読むこと 復習：講義で学んだ箇所を読み、講義内容の理解に努めること							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション、保育の心理学とは	第 9 回：子どもの遊びと学び						
第 2 回：子ども理解における発達（胎児期から幼児期）の把握	第 10 回：生きる力の基礎を培うとは						
第 3 回：個人差や発達過程に応じた保育	第 11 回：自己の主体性の形成と発達援助						
第 4 回：身体感覚を伴う経験と環境の相互作用	第 12 回：発達の課題に応じた援助						
第 5 回：子ども相互のかかわりと関係作り	第 13 回：発達の連続性と就学への支援						
第 6 回：自己主張と自己抑制	第 14 回：発達援助における協働						
第 7 回：集団と保育の環境	第 15 回：子どもの発達と保育の課題						
第 8 回：子どもの生活と学び	第 16 回：期末試験						
テキスト：新保育士養成講座編纂委員会（編）『新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学』 全国社会福祉協議会							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：期末試験、授業内レポート、演習（グループ討議）、発表							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
試験 （中間・期末試験）	○						40
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				15
授業態度				○			10
受講者の発表	○		○	○			5
演 習	○	○	○				30
その他							
履修上の注意：グループ討議を積極的に行うこと。							

授業科目名		2単位 (2-0)	担当教員				
子どもの保健Ⅱ（＝小児保健Ⅱ） (Health Care for Infants II)			笹良 秀美				
授業の到達目標及びテーマ							
Ⅰ 子どもの心身の健康を守り、育てるための科学としての知識・技術を学ぶ。							
Ⅱ 健全な成長を量るうえで必要な疾病や事故、その予防や防止についての知識を学ぶ。							
授業の概要							
小児疾患、看護について学び、保育士に必要な知識、養育力を養う。							
予習：教科書を事前に読み、分からない語句等は調べておく。							
復習：レジュメ、教科書を再度読みかえす。							
授 業 計 画（※講義内容については、若干変更になる事があります。）							
第1回：はじめに・・・講義に望む心構え／講義内容について		第9回：小児の主な病気：アレルギー／神経系及び精神心理系の病気					
第2回：小児の主な病気・・・小児の病気の特徴／先天異常 DVD鑑賞（レポート提出）		第10回：小児の主な病気：皮膚／骨・関節・筋肉／眼・耳・鼻・口・歯の病気					
第3回：小児の主な病気・・・感染する病気 ①ウイルス感染症		第11回：小児の主な病気：子どもの精神保健～心のケア～①					
第4回：小児の主な病気・・・感染する病気 ②細菌感染症／その他の感染症 感染症の予防と対策		第12回：小児の主な病気：子どもの精神保健～心のケア～②					
第5回：沐浴の演習		第13回：子どもの精神保健／子どもの心の健康とその課題 グループワーク					
第6回：小児の主な病気：呼吸器系／循環器系の病気		第14回：子どもの精神保健～虐待について～ グループワーク					
第7回：小児の主な病気：消化器系／血液の病気／小児がん		第15回：まとめ					
第8回：小児の主な病気：腎臓・泌尿器・性器の病気		第16回：期末テスト					
テキスト：「わかりやすい小児保健」 西村昂三編著 同文書院							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：1. 課題レポート 2. 期末テスト 3. 授業態度							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					80
小テスト・ 授業内レポート	○				○		10
授業態度			○	○			10
受講者の発表							
演 習							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員				
子どもの保健Ⅱ（＝小児保健Ⅱ） (Health Care for Infants II)			知念 菜穂子				
授業の到達目標及びテーマ							
1. 子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。							
2. 子どもの精神保健とその課題等について理解する。							
3. 保育における環境及び衛生管理並びに安全管理について理解する。							
4. 施設等における子どもの心身の健康および安全の実施体制について理解する。							
授業の概要							
1. 子どもたちの心身の健康を守り、育てるための科学としての「小児保健学」の知識・技術を習得する。							
2. 保育者として、子どものもっている生命力を十分に発揮させ、可能性を伸ばす実践活動をするための保育能力を養う。							
予習：事前にテキストを読むこと							
復習：講義の内容をより理解し、応用できるよう努める							
授 業 計 画 （※講義内容については、若干変更になる事があります。）							
第1回： はじめに ダウン症ビデオ鑑賞		第9回： よくみられる病気と事故 皮膚の病気、骨・関節・筋肉の病気と異常					
第2回： よくみられる病気と事故 先天異常		第10回： よくみられる病気と事故 眼・耳・鼻・口・歯の病気と異常					
第3回： よくみられる病気と事故 感染する病気（ウィルスによる病気）		第11回： よくみられる病気と事故 子どもの事故					
第4回： よくみられる病気と事故 感染する病気（細菌感染による病気）		第12回： 病気の予防と保健指導					
第5回： よくみられる病気と事故 呼吸器系の病気・循環器系の病気		第13回： 子どもの精神保健～心のケア～					
第6回： よくみられる病気と事故 消化器の病気・血液の病気と小児がん		第14回： 生活環境と育児					
第7回： よくみられる病気と事故 腎臓・泌尿器・性器内分泌の異常による病気		第15回： 子どもの保健Ⅱのまとめ					
第8回： よくみられる病気と事故 アレルギー・神経系及び精神心理系の病気		第16回： 期末試験					
テキスト： 「わかりやすい小児保健」 西村昂三編著 同文書院							
参 考 書： 「子どもの保健Ⅰ」 佐藤益子編著 ななみ書房 「保育のための小児保健」 高内正子編著 保育出版社 「小児保健Ⅰ」 田中哲郎編著 建帛社 「保育・教育のための小児保健」 新平鎮博編著 光生館 「保育保健の基礎知識」 巷野悟郎監修 日本小児医事出版社							
評価方法・評価基準： 1. 課題レポート 2. 期末テスト							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○						50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度	○	○	○			○	20
受講者の発表	○	○	○				30
演 習							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名		1 単位 (0-2)	担当教員				
子どもの保健Ⅲ（＝小児保健実習） (Infants Health Care Practice)			笹良 秀美				
授業の到達目標及びテーマ							
① 子どもの保健Ⅰの理論をふまえ、子どもの健康・安全の捉え方及び成長発達に応じた計画・指導・方法について具体的に学び、実践できる能力を習熟する。							
② 現代社会における子どもや子どもの家族などの心の健康問題について理解し、実際の関わり方の考え方やその方法について学ぶ							
授業の概要：小児保健の基本的知識・技術を習得し、実践活動ができる保育能力を養う。							
予習：演習内容箇所を事前に読んで理解しておく							
復習：習得した技術内容をより理解し、応用できるように努めること							
授 業 計 画 ※講義内容については、若干変更になる事があります。							
第 1 回：	はじめに 授業のここがまえ／ 講義内容	第 9 回：	演習⑦ 保育における看護 発表				
第 2 回：	演習① 手洗いの実習 保育者にとっての手洗いの意義 抱っこの実習 月齢に応じた方法	第 10 回：	よく起こる事故について知ろう DVD 鑑賞				
第 3 回：	演習② 子どもの発育を知ろう 身体計測（頭囲・胸囲・体重・身長）	第 11 回：	演習⑧ 子どもに起きやすい事故 グループワーク（家庭内・園内の事故）				
第 4 回：	演習③ おむつ交換／着替えの方法 紙おむつと布おむつ、衣服の選び方	第 12 回：	演習⑨ 子どもに起きやすい事故の応急処置 止血法、包帯法				
第 5 回：	演習④ 沐浴の演習	第 13 回：	演習⑩ 子どもの生活習慣について考えてみようⅠ				
第 6 回：	演習⑤ 歯磨きの演習 指導法を 考えて実践してみよう①	第 14 回：	演習⑪ 子どもの生活習慣について考えてみようⅡ				
第 7 回：	演習⑤ 歯磨きの演習 指導法を 考えて実践してみよう②	第 15 回：	まとめ				
第 8 回：	演習⑥ 保育における看護 グループワーク	第 16 回：	期末テスト				
テキスト： 子どもの保健演習ノート 診断と治療社							
参 考 書：							
兼松百合子・遠藤巴子編著『小児保健実習 保育と保健・看護の視点から』同文書院							
跡見一子編著『小児保健実習』建帛社							
高内正子編著『小児保健実習』保育出版社							
千羽喜代子・吉岡毅・長谷川浩道『実習育児学』日本小児医事出版社							
母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所編『最新乳幼児保育指針』日本小児医事出版社							
評価方法・評価基準：授業への参加度、グループワーク参加度、レポート提出、期末テスト							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○					50
小テスト・ 授業内レポート		○			○		20
授業態度				○			
受講者の発表			○				10
演 習			○	○			20
その他							
履修上の注意：（提出物）H29・1月まで『保健だより』 各レポート(指定)							

授業科目名		1 単位 (0-2)	担当教員				
子どもの保健Ⅲ（＝小児保健実習） (Infants Health Care Practice)			知念 菜穂子				
授業の到達目標及びテーマ							
1. 子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。							
2. 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。							
3. 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について具体的に学ぶ。							
4. 救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学ぶ。							
5. 現代社会における心の健康問題や地域保健活動等について理解する。							
授業の概要：子どもの保健の基本的知識・技術を習得し、実践活動ができる保育能力を養う。							
予習：事前にテキストを読むこと							
復習：講義の内容をより理解し、応用できるよう努める							
授 業 計 画 ※講義内容については、若干変更になる事があります。							
第 1 回： はじめに 妊婦・赤ちゃん体験		第 9 回： よく起こる事故について知ろう					
第 2 回： 子どもの発育を知ろう 身体測定		第 10 回： いざというときの応急処置について知ろう					
第 3 回： 子どもの発達を知ろう		第 11 回： 慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について知ろう					
第 4 回： 子どもの健康状態を知ろう バイタルサインの測定		第 12 回： 子どもの生活習慣について考えてみよう					
第 5 回： 日常における養護の方法① 抱っこ・着替え・おむつ替え等		第 13 回： 世界の子どもの保健をながめてみよう					
第 6 回： 日常における養護の方法② 沐浴・口腔の清潔等		第 14 回： ほけんだより作成					
第 7 回： 子どもの保育環境づくり		第 15 回： 子どもの保健Ⅲまとめ					
第 8 回： よくわかる病気について知ろう		第 16 回： 期末試験					
テキスト： これならわかる！「子どもの保健演習ノート」 ＊子育てパートナーが知っておきたいこと＊ 榎原 洋一 監修 診断と治療社							
参 考 書： 「子どもの保健Ⅱ」 佐藤 益子 編著 ななみ書房 「子どもの保健実習」 兼松 百合子 他 編著 同文書院 「小児保健実習」 高内正子編著 保育出版社 「最新乳幼児保育指針」 母子愛育会・日本子ども家庭総合研究所編 日本小児医事出版社							
評価方法・評価基準： 1. 課題テーマによるレポート 2. 演習課題 3. 期末試験							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○						50
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			20
受講者の発表							
演 習		○	○	○	○		30
その他							
履修上の注意：							

授業科目名		2 単位 (0-2)	担当教員				
障害児保育（＝障害児保育演習） (Handicapped Child Caring Pract.)			山田 悦子				
授業の到達目標							
知識理解：健全児、障害児の発達を説明できる。		関心意欲：障害児保育・療育に興味を持てる。					
思考判断：育ちの基本を指摘できる。		態度：既存概念に疑いを持つ。					
授業の概要							
1) 様々な障害についての理解を促し、個別的な保育上の留意点について学習させる。							
2) 障害児保育場面における日常生活動作、食事、排泄、更衣の生活動作など具体的な保育方法について理解させる。							
3) 相談機関等の種類と内容を理解すると共に障害児への個別的援助の概略と保護者を中心とした支援の内容に理解を深めさせる。							
予習：事前に配布したプリントを読み、障害に対して認識しておく							
復習：授業学んだ箇所を再度読み、障害の理解をより深め次への授業のステップに繋げる							
授 業 計 画							
第 1 回： 障害児の発達について		第 9 回： 自閉症スペクトラムについて					
第 2 回： "		第 10 回： 演習					
第 3 回： 障害児の種類とその特徴		第 11 回： 演習					
第 4 回： "		第 12 回： 障害児保育発達の保障					
第 5 回： 発達の遅れ		第 13 回： "					
第 6 回： "		第 14 回： きょうだいへの支援・まとめ					
第 7 回： 自閉症スペクトラムについて		第 15 回： "					
第 8 回： "		第 16 回： 期末試験					
テキスト： 『障害児保育』 近藤直子・白石正久・中村尚子編著 全障研出版							
参 考 書： 『障害児の療育的保育』『発達とは矛盾をのりこえること』、その他等							
評価方法・評価基準： 授業への参加度・授業態度・期末テストで評価							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○		○			70
小テスト・ 授業内レポート							評価に加えず
授業態度			○				20
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
授業への参加度			○				10
履修上の注意：							
講義には目的意識を持って、主体的に参加すること。講義を通じて自ら思考する態度を身に付けること。							
また、講義中は他者への迷惑行為（携帯電話・メール・私語・離席等）を固く禁止する。							

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員																																																																													
社会的養護内容（＝養護内容演習） (Seminar in Child Care)		砂川 純子																																																																													
授業の到達目標及びテーマ																																																																															
・ 社会的養護における子どもの最善の利益の意味を理解した支援・援助について学ぶ。 ・ 社会的養護を通して、家庭支援、児童福祉、地域支援（福祉）等について認識を深める。																																																																															
授業の概要																																																																															
各児童施設の養護内容の理念を前提にした支援・援助についてディスカッション等を通して具体的なあり方を学習できるようにする。																																																																															
予習：テキストにて事前学習を行い授業に臨む。																																																																															
復習：授業内容をふりかえり理解を深める。																																																																															
授 業 計 画																																																																															
第 1 回： 社会的養護とは																																																																															
第 2 回： 児童の権利擁護																																																																															
第 3 回： 社会的養護の実施体系/社会的養護の理念と原理																																																																															
第 4 回： 施設における自立支援のあり方																																																																															
第 5 回： 自立支援計画の意義と作成																																																																															
第 6 回： 施設における生活支援と規則について																																																																															
第 7 回： 事例分析（各種施設）																																																																															
第 8 回： 事例分析（家族再構築）																																																																															
第 9 回： 事例分析及び記録及び評価																																																																															
第 10 回： 被虐待児・発達障害児の生活支援																																																																															
第 11 回： 自立に向けたアフターケアの支援について																																																																															
第 12 回： 児童相談所及び関係機関との連携について																																																																															
第 13 回： 保育士・ソーシャルワーカー等の専門性に係わる知識、技術とその応用																																																																															
第 14 回： 施設の小規模化と地域とのかかわり																																																																															
第 15 回： 社会的養護の今後の課題と展望																																																																															
第 16 回： 期末試験																																																																															
テキスト： 「児童福祉を支える演習 社会的養護内容」 萌文書林 吉田眞理編著																																																																															
参 考 書： 「子ども虐待という第四の発達障害」 学研 杉山登志郎著																																																																															
評価方法・評価基準：																																																																															
<table><tr><td>到達目標等</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>成績評価</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td>80</td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>評価に加えず</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>○</td><td></td><td>5</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>評価に加えず</td></tr><tr><td>授業への参加度</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>5</td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	成績評価								試験 (中間・期末試験)	○	○		○			80	小テスト・ 授業内レポート	○						10	授業態度							評価に加えず	受講者の発表	○	○	○		○		5	演 習							評価に加えず	授業への参加度			○				5	その他														
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																																								
成績評価																																																																															
試験 (中間・期末試験)	○	○		○			80																																																																								
小テスト・ 授業内レポート	○						10																																																																								
授業態度							評価に加えず																																																																								
受講者の発表	○	○	○		○		5																																																																								
演 習							評価に加えず																																																																								
授業への参加度			○				5																																																																								
その他																																																																															
履修上の注意：																																																																															

授業科目名		担当教員
保育所実習Ⅰ（＝保育実習Ⅰ） (Nursery Sch. Teaching Pract.Ⅰ)	2 単位	赤嶺 優子
授業の到達目標及びテーマ		
1. 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。		
授業の概要		
保育所実習を通し、子どもの発達、保育内容、保育士の役割等について学ぶ。 予習：保育所保育指針を読み、保育所の役割、子どもの発達、保育の内容等の理解を深めること。 復習：保育所実習Ⅰの省察・自己評価し、自己の課題を認識し課題解決をすること。		
実 習 内 容 実習の方法は、大きく分けると、次の段階がある。		
1. 保育所の役割と機能 ①保育所の生活と一日の流れ ②保育所保育指針の理解と保育の展開 2. 子どもの理解 ①子どもの観察とその記録による理解 ②子どもの発達過程の理解 		

授業科目名	2単位	担当教員					
施設実習 I (Pract. in Child Welfare Inst. I)		川西 康裕					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解します。 2. 観察や子ども（利用者）とのかかわりを通して子ども（利用者）への理解を深めます。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育（利用者の支援）および保護者（家族）への支援について総合的に学びます。 4. 保育（支援）の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解します。 5. 保育士（支援員）の業務内容や職業倫理について具体的に学びます。							
授業の概要							
施設実習指導を履修した学生が、居住型児童福祉施設等及び障害児者通所施設での実習を通じて、施設と利用者についての理解を深め、とりわけ基本的生活習慣の指導法や利用者との信頼関係のきづきかた等について体験的に学習するとともに、広く施設における保育士の職務内容・役割ならびに他の専門職員とのチームワークのあり方などを学びます。 予習：実習施設の最終決定までに、施設についてよく調べ、見学またはボランティアをおこなうこと。 復習：反省会と実習評価のための個人面談において、実習についてよく振り返り、発言すること。							
実 習 内 容							
＜居住型児童福祉施設等及び障害児者通所施設における実習の内容＞							
1. 施設の役割と機能 （1） 施設の生活と一日の流れ （2） 施設の役割と機能 2. 子ども（利用者）理解 （1） 子ども（利用者）の観察とその記録 （2） 個々の状態に応じた援助やかかわり 3. 養護内容・生活環境 （1） 計画に基づく活動や援助 （2） 子ども（利用者）の心身の状態に応じた対応 （3） 子ども（利用者）の活動と生活の環境 （4） 健康管理、安全対策の理解 4. 計画と記録 （1） 支援計画の理解と活用 （2） 記録に基づく省察・自己評価 5. 専門職としての保育士の役割と倫理 （1） 保育士の業務内容 （2） 職員間の役割分担や連携 （3） 保育士の役割と職業倫理							
テキスト：		参 考 書：					
評価方法・評価基準：実習施設の評価に実習担当教員の評価を加点して採点します。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
実習担当教員の評価 (日誌、レポート、反省会、 訪問指導、面談等による)	○	○	○	○	○		50
実習施設評価	○	○	○	○	○		50
履修上の注意：施設での実習オリエンテーションが実習開始と心得、実習日誌および実習レポートを期限内に提出して実習終了と心得ること							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
保育所実習指導 I (=保育実習指導) (Nurse.Schools Pract. Orientation)		赤嶺優子・喜舎場勤子 ・照屋建太・佐久本邦華

授業の到達目標及びテーマ

1. 保育実習の意義・目的を理解する。
2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
3. 保育施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
4. 実習の計画、実践、観察、評価の方法や内容について具体的に理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業の概要

1. 事前指導は実習内容全般にわたって把握する。
2. 事後指導は実習で得た感動や反省、問題点などを出し合いまとめる。
 予習：①実習内容を把握し、目的、意義等の実習内容を把握し、自己の目的を認識する。
 ②保育技能の実践を計画し部分案を作成する。
 復習：①実習の総括を行ない自己評価し自己の課題を認識し、Ⅱの課題を明確にする。
 ②保育技能の発表について自己評価し、改善点を考察する。

授 業 計 画

第 1 回： 保育実習の意義 ①実習の目的	第 9 回： 実習の計画と記録 ①実習における計画と実践
第 2 回： 保育実習の意義 ②実習の概要	第 10 回： 実習の計画と記録 ②実習における観察、記録及び評価
第 3 回： 実習の内容と課題の明確化 ①実習の内容	第 11 回： 保育技能の実践と評価
第 4 回： 実習の内容と課題の明確化 ②実習の課題	第 12 回： 保育技能の実践と評価
第 5 回： 事前訪問（実習先オリエンテーション）と訪問時のマナー	第 13 回： 特別講義
第 6 回： 実習に際して留意事項 ①子どもの人権と最善の利益の考慮	第 14 回： 事後指導における実習の総括の明確化 ①実習の総括と自己評価
第 7 回： 実習に際して留意事項 ②プライバシーの保護と守秘義務	第 15 回： 事後指導における実習の総括の明確化 ②課題の明確化
第 8 回： 実習に際して留意事項 ③実習生としての心構え	第 16 回： 保育所実習Ⅰの自己評価とⅡの課題

テキスト：全国社会福祉協議会『幼保連携型認定子ども園教育・保育を読む』その他必要な資料は担当者が準備する。

参 考 書：

評価方法・評価基準：授業内レポート、指導案（日案・部分）作成、保育技能発表と評価、その他（提出物）等で総合的に評価する。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 (中間・期末試験)							
授業内レポート	○	○					10
授業態度							
保育技能発表と評価	○	○		○	○		10
演習							
指導案（日案・部分）作成	○	○					20
その他							60

履修上の注意：

授業科目名		1 単位 (0-2)	担当教員				
施設実習指導 I（＝施設実習指導） (Welfare Inst. Pract. Orientation)			川西 康裕・佐久本邦華				
授業の到達目標及びテーマ							
1. 施設実習の意義・目的を理解し、社会的養護（保育、支援）について総合的に学びます。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にします。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解します。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解します。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にします。							
授業の概要							
1. 可能であれば、実習施設の見学または 1 日ボランティアをおこない、レポートし、発表する。 2. 実習に行く前にテキストを読み、小テストを 5～6 回おこなう。読後ディスカッションし、質疑応答する。 3. 実習施設に関する調査レポートを提出し、発表する。理解がゆきとどくまで再提出をおこなう。 4. 部分実習・責任実習があることを想定して、準備する。 5. 実習生調査書、実習計画書、誓約書等を作成する。 6. 施設職員による特別演習をおこない、元施設利用者による特別講義をおこなう。 7. 上級生の助言を聴く会と実習終了者からの情報伝達会を設ける。 予習：指定されたテキストの箇所を読んでくる。提出物を期限内に提出する。 復習：実習施設に関する提出物ならびにテキストを読み返す。							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーションー施設実習とは		第 9 回：先輩からの情報伝達会					
第 2 回：実習先希望調査 実習配置先の決定		第 10 回：部分実習発表会 誓約書					
第 3 回：事前訪問・ボランティア レポート		第 11 回：講演「出会い～支えられるだけじゃなく、支え合える人でありたい」（新里龍太氏） 実習日誌、評価表、出勤簿、実習レポート集配布					
第 4 回：実習施設に関する調査 レポート		第 12 回：施設オリエンテーション 実習実施					
第 5 回：演習「心身障害児への対応について」 (沖縄中部療育医療センター 派遣講師)		第 13 回：実習終了者からの情報伝達会					
第 6 回：DVD「保育者への歩みー乳児院・児童 養護施設」実習生調査書		第 14 回：反省会 実習日誌、実習レポート提出					
第 7 回：DVD「施設実習の予備知識ー障害者支援施設」 実習計画書 実習先地図		第 15 回：施設評価票伝達 課題の発見					
第 8 回：実習記録を学ぶ（先輩の日誌から）		第 16 回：実習評価のための個人面談					
テキスト： 小野澤 昇、田中利則・大塚良一 編著『保育の基礎を学ぶ福祉施設実習』 ミネルヴァ書房、2014（変更の可能性あり）							
参 考 書： 分野別に適宜紹介します。							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
レポート (事前訪問、調査)	○	○	○				40
テキスト試験	○	○	○				20
受講者の発表			○	○	○		10
指導案		○	○		○		10
特別講義レポート	○	○	○				10
その他調査書、計画書		○	○				10
履修上の注意：児童家庭福祉、社会的養護等の学習に関連づけて、実習施設について集中的に学んでください。 普段から健康管理に気をつけ、部分実習・責任実習に向けて技能をみがいてください。							

授業科目名		担当教員					
保育所実習Ⅱ（＝保育実習Ⅱ） （Nursery Sch. Teaching Pract. II）	2 単位	照屋 建太					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 2. 子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 3. 既習の教科や保育所実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 6. 保育士としての自己課題を明確化する。							
授業の概要							
保育実習Ⅰで習得した知識や経験をふまえ、諸専門科目で学んだ理論をもとに、保育所保育士としての知識や指導法を学ぶ。さらに保育所における子育て支援についての理解を深める。 予習：事前に保育園へ訪問し、子どもたちの様子を確認しておく。 復習：毎日の実習を振り返り、翌日の実習に生かす。							
授 業 計 画							
1. 保育所の役割や機能の具体的展開 （1）養護と教育が一体となって行われる保育 （2）保育所の社会的役割と責任 2. 観察に基づく保育理解 （1）子どもの心身の状態や活動の観察 （2）保育士等の動きや実践の観察 （3）保育所の生活の流れや展開の把握 3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等の連携 （1）環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 （2）入所している子どもの保護者支援及び地域の lp sp 立て家庭への支援 （3）地域社会との連携 4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 （1）保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 （2）作成した指導計画に基づく保育実践と評価 5. 保育士の業務と職業倫理 （1）多様な保育の展開と保育士の業務 （2）多様な保育の展開と保育士の職業倫理 6. 自己の課題の明確化							
テキスト：							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：評価は、実習日誌、実習評価、実習レポートで行う。							
到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価 試験 （中間・期末試験）							
小テスト・ 授業内レポート							40
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
その他							60
履修上の注意：実習園のオリエンテーションをしっかり受け、実習生としての自覚を持つこと。							

授業科目名	2 単位	担当教員					
施設実習Ⅱ (Pract. in Child Welfare Inst. II)		川西 康裕					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深めます。 2. 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養います。 3. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解します。 4. 保育士としての自己の課題を明確化します。							
授業の概要							
施設実習Ⅰ、相談援助、社会的養護内容等諸学科で習得した知識と経験をふまえ、施設実習Ⅰの実習施設に加えて、児童厚生施設など施設実習Ⅰで実習できなかった児童福祉施設その他社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設で実習することによって、保育士として必要な指導技術の幅を広げ、自らの児童観・人間観を深め、職業人としての社会参加意欲を高めます。 予習：実習施設の最終決定までに、施設についてよく調べ、見学またはボランティアをおこなうこと。 復習：反省会と実習評価のための個人面談において、実習についてよく振り返り、発言すること。							
実 習 内 容							
1. 児童福祉施設等の役割と機能 2. 施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子どもの家族への支援と対応 (5) 多様な専門職との連携 (6) 地域社会との連携 3. 保育士の多様な業務と職業倫理 4. 保育士としての自己課題の明確化							
テキスト：							
参 考 書：							
評価方法・評価基準：実習施設の評価に実習担当教員の評価を加点して採点します。							
成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度							
受講者の発表							
演 習							
実習担当教員の評価 (日誌、レポート、反省会、 訪問指導等による)	○	○	○	○	○		50
実習施設の評価	○	○	○	○	○		50
履修上の注意：施設での実習オリエンテーションが実習開始と心得、実習日誌および実習レポートを期限内に提出して実習終了と心得ること							

授業科目名	1 単位 (0－2)	担当教員					
保育所実習指導Ⅱ（＝保育実習指導） (Nurse.Schools Pract. Orientation)		山城眞紀子・照屋建太					
授業の到達目標及びテーマ							
1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。							
授業の概要							
1. 事前指導では、実習に対する理解を深め、有意義な実習となるよう十分な準備をする。実習生としての基本的な心構えをはじめ、実習内容を十分に理解し、自己課題を持って実習に望めるようにする。 2. 事後指導では、実習反省会を行い、実習で得た感動や反省、問題点などを出し合い、グループ討議及び全体でまとめをする。実習の総括と事後評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。 予習：実習園の概要と実習時期の行事、固定クラスを確認しておく。 復習：講義内容をしっかり復習し、理解を深める。							
授 業 計 画							
1. 保育実習による総合的な学び (1) 子どもの最善の利益と考慮した保育の具体的理解 (2) 子どもの保育と保護者支援 2. 保育実践力の育成 (1) 子どもの状況に応じた適切ななかかわり (2) 保育の表現技術を生かした保育実践 3. 計画と監察、記録、自己評価 (1) 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践 (2) 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善 4. 保育士の専門性と職業倫理 5. 事後指導における実習の総括と評価 (1) 実習の総括と自己評価 (2) 課題の明確化							
テキスト：厚生労働省「保育所保育指針」 その他、必要な資料は担当者が準備する。							
参 考 書： 必要に応じて紹介する							
評価方法・評価基準： 評価は、技能発表、提出物等で行う。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○					60
授業態度							
受講者の発表			○	○	○		10
演 習							
その他						○	30
履修上の注意： 実習指導は、実習の気持ちで身なりも整えて参加すること。							

授業科目名		1単位 (0－2)	担当教員																																																
施設実習指導Ⅱ（＝施設実習指導） (Welfare Inst. Pract. Orientation)			川西 康裕																																																
授業の到達目標及びテーマ																																																			
(1) 施設実習の意義・目的を理解し、社会的養護（保育、支援）について総合的に学びます。 (2) 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、養護（保育、支援）実践力を培います。 (3) 養護（保育、支援）の観察、記録及び自己評価等を踏まえた養護（保育、支援）の改善について実践や事例を通して学びます。 (4) 保育士の専門性と職業倫理について理解します。 (5) 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。																																																			
授業の概要																																																			
1. 可能であれば、実習施設の見学または1日ボランティアをおこない、レポートし、発表する。 2. 実習施設に関する調査レポートを提出し、発表する。理解がゆきとどくまで再提出をおこなう。 3. 部分実習・責任実習があることを想定して、準備する。 4. 実習生調査書、実習計画書、誓約書等を作成する。 5. 施設実習Ⅰに行く下級生に助言を行う。 6. 実習に行けなかった近隣施設の見学を行う。 予習：提出物を期限内に提出する。 復習：実習施設に関する提出物ならびにテキストを読み返す																																																			
授 業 計 画																																																			
第1回：オリエンテーションー施設実習Ⅱとは 第2回：実習先希望調査 実習配置先の決定 第3回：事前訪問・ボランティア レポート 第4回：実習施設に関する調査 第5回：実習施設に関する調査 レポート 第6回：実習生調査書 第7回：実習計画書 実習先地図 第8回：実習記録を学ぶ（先輩の日誌から）		第9回：部分実習発表会 第10回：直前の情報伝達会 実習日誌、評価表、出勤簿、実習レポート作成法配布 第11回：施設オリエンテーション 第12回：実習実施 第13回：反省会 実習日誌、実習レポート提出 第14回：他施設見学 第15回：施設評価票伝達 課題の発見 第16回：実習評価のための個人面談																																																	
テキスト：小野澤 昇、田中利則・大塚良一 編著『保育の基礎を学ぶ福祉施設実習』 ミネルヴァ書房、2014（変更の可能性あり）																																																			
参 考 書：分野別に適宜紹介します。																																																			
評価方法・評価基準：																																																			
<table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>レポート (事前訪問、調査)</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>40</td></tr><tr><td>調査書・計画書</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>部分/責任指導案</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>+α</td></tr><tr><td>実習報告発表</td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>他施設見学レポート</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr></table>				到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	レポート (事前訪問、調査)	○	○	○				40	調査書・計画書	○	○	○				20	部分/責任指導案			○	○			+α	実習報告発表				○	○		10	他施設見学レポート	○	○	○				20
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																												
レポート (事前訪問、調査)	○	○	○				40																																												
調査書・計画書	○	○	○				20																																												
部分/責任指導案			○	○			+α																																												
実習報告発表				○	○		10																																												
他施設見学レポート	○	○	○				20																																												
履修上の注意：社会福祉、相談援助、社会的養護内容等の学習に関連づけて、実習施設について集中的に学んでください。 普段から健康管理に気をつけ、部分実習・責任実習に向けて技能をみがいでください。																																																			

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員					
発達心理学Ⅱ (Developmental Psychology II)		大城 りえ					
授業の到達目標及びテーマ：青年期の発達課題について理解する。							
授業の概要							
青年期の心理と行動について、学ぶ。また、心理テストを通して、自分自身についての理解を深める。							
予習：テキストの該当箇所を、事前に読むこと							
復習：授業内容を再確認し、理解に努めること							
授 業 計 画							
第 1 回：オリエンテーション、 発達心理学Ⅱとは	第 9 回：社会との関係						
第 2 回：自己意識	第 10 回：生き方と文化						
第 3 回：身体発達	第 11 回：就職						
第 4 回：ジェンダー	第 12 回：心の問題						
第 5 回：家族関係	第 13 回：行動の問題						
第 6 回：友人関係	第 14 回：ストレス						
第 7 回：恋愛とは	第 15 回：ライフ・サイクル						
第 8 回：結婚							
テキスト：山崎晃・浜崎隆司（編）『スマートに生きる女性と心理学』北大路書房 その他担当者が準備する。							
参 考 書： 随時、紹介する。							
評価方法・評価基準：小テスト、授業態度、発表							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				50
授業態度				○			15
受講者の発表	○	○	○	○			35
演 習							
その他							
履修上の注意：							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員																																																								
海外幼児教育研究 (Overseas Studies for Presch. Ed.)		喜舎場 勤子																																																								
授業の到達目標及びテーマ 知識理解：就学前教育・保育の世界的動向や多様な保育方法等について、基本的な事を理解する。 思考判断：日本の幼児教育・保育を多角的にみる目を培うと共に、批判的思考力や判断力を養う。 関心意欲：異文化理解および多文化共生への関心を高める。 態 度：豊かな教育実践を支える基礎的な力を培う。																																																										
授業の概要 他国の就学前教育・保育に触れることで、それぞれの国の「歴史や文化」と「保育」「教育」が密接に関連していることを理解する。自己の文化理解を深め、日本の保育や教育を多角的にみる目を培う。 また、保育実践の場で活用できる教材を開発する。 予習：事前にシラバスを確認し、授業に関する情報を収集し出席する。 復習：講義内容を振り返り、学んだ知識を活用できるように努める。																																																										
授 業 計 画 <table><tr><td>第 1 回： 海外の動向と日本</td><td>第 9 回： 発展途上国と子ども</td></tr><tr><td>第 2 回： しつけと文化</td><td>第 10 回： モンテッソーリ・メソッド</td></tr><tr><td>第 3 回： 父親と子育て</td><td>第 11 回： レッジョ・エミリア・アプローチ</td></tr><tr><td>第 4 回： 就学前教育の世界的動向</td><td>第 12 回： 多様な保育方法（T&M/PL）</td></tr><tr><td>第 5 回： 生活基盤型</td><td>第 13 回： 課題発表①</td></tr><tr><td>第 6 回： スウェーデンの子育て</td><td>第 14 回： 課題発表②</td></tr><tr><td>第 7 回： 就学準備型</td><td>第 15 回： 国際化と保育実践</td></tr><tr><td>第 8 回： イギリスの就学前教育</td><td></td></tr></table>			第 1 回： 海外の動向と日本	第 9 回： 発展途上国と子ども	第 2 回： しつけと文化	第 10 回： モンテッソーリ・メソッド	第 3 回： 父親と子育て	第 11 回： レッジョ・エミリア・アプローチ	第 4 回： 就学前教育の世界的動向	第 12 回： 多様な保育方法（T&M/PL）	第 5 回： 生活基盤型	第 13 回： 課題発表①	第 6 回： スウェーデンの子育て	第 14 回： 課題発表②	第 7 回： 就学準備型	第 15 回： 国際化と保育実践	第 8 回： イギリスの就学前教育																																									
第 1 回： 海外の動向と日本	第 9 回： 発展途上国と子ども																																																									
第 2 回： しつけと文化	第 10 回： モンテッソーリ・メソッド																																																									
第 3 回： 父親と子育て	第 11 回： レッジョ・エミリア・アプローチ																																																									
第 4 回： 就学前教育の世界的動向	第 12 回： 多様な保育方法（T&M/PL）																																																									
第 5 回： 生活基盤型	第 13 回： 課題発表①																																																									
第 6 回： スウェーデンの子育て	第 14 回： 課題発表②																																																									
第 7 回： 就学準備型	第 15 回： 国際化と保育実践																																																									
第 8 回： イギリスの就学前教育																																																										
テキスト：必要に応じて資料を配布する		参 考 書：																																																								
評価方法・評価基準： <table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>40</td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td>50</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				40	授業態度			○	○			10	受講者の発表	○	○	○				50	演 習								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																			
試験 (中間・期末試験)																																																										
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○				40																																																			
授業態度			○	○			10																																																			
受講者の発表	○	○	○				50																																																			
演 習																																																										
その他																																																										
履修上の注意：																																																										

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
総合表現 (Comprehensive expression and activity)		佐久本邦華・山城眞紀子・大山伸子

授業の到達目標及びテーマ

保育・幼児教育において表現する様々な行為は子どもにとって日常的な活動であり、本来、分断化されない総合的なものであると考えられる。本科目「総合表現」では、上記した問題意識から、まずは身体・音・造形という馴染みある観点を入り口とし、最終的には全てを横断包括する「総合的な表現活動」への認識を高める事を目的とする。

授業の概要

総合表現という科目は、身体による表現（山城）と音による表現（大山）、造形による表現（佐久本）の教員が三人一組で行い、保育・幼児教育の現場で展開できる「表現」のあり方を演習形式で探っていくものである。概要としては、前半部分で「ごっこ遊び」や「お話」から展開される総合表現活動についての演習を行い、後半では学生自身が総合表現活動を企画・立案する。さらに最終的に学外に赴き、実際に現場において学生自身が活動案を発表し、「表現」活動のありかたを学ぶ。

予習：レジュメを事前によく読み、次回講義内容について知識を確認しておくこと。

復習：授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。

授 業 計 画

第 1 回：	オリエンテーション-総合表現の意義と目標-	第 9 回：	お話から展開される総合表現一発表
第 2 回：	ごっこ遊びから展開される総合表現①	第 10 回：	学生の企画から展開される総合表現一企画①
第 3 回：	ごっこ遊びから展開される総合表現②	第 11 回：	学生の企画から展開される総合表現一企画②
第 4 回：	ごっこ遊びから展開される総合表現③	第 12 回：	学生の企画から展開される総合表現一企画③
第 5 回：	ごっこ遊びから展開される総合表現一発表	第 13 回：	学生の企画から展開される総合表現一企画④
第 6 回：	お話から展開される総合表現①（劇遊び）	第 14 回：	学生の企画から展開される総合表現一学内発表
第 7 回：	お話から展開される総合表現②（劇遊び）	第 15 回：	学外発表（幼稚園・保育園）
第 8 回：	お話から展開される総合表現③（劇遊び）	第 16 回：	まとめ・反省

テキスト： 作成資料配布

参 考 書： 特になし

評価方法・評価基準：

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
成績評価							
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート							
授業態度			○	○			40
受講者の発表					○		20
演 習					○		20
最終発表				○			20

履修上の注意：場所の移動が考えられるので、事前に告知される準備物に留意すること

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
手話 I (Sign Language I)		神田 朋子

授業の到達目標及びテーマ： 聴覚障害について学び、手話言語の基本が理解できる。

授業の概要

聴覚障害者のコミュニケーション手段である手話言語を理解するとともに、ろう講師と直接会話をすることでろう講師の話の内容が理解でき、自己紹介が表現できるようなレベルまで到達する。また、聴覚障害者の歴史・教育・就労など社会状況を学習し、ろう文化についても認識を深めていけるようにしていく。

予習：テキストに付いている DVD を見て、表現に慣れましょう。

復習：手話で習った表現を改めて表現(練習)してみましょう。

授 業 計 画

第 1 回： 自己紹介 1：名前	第 9 回： まとめ
第 2 回： 手話とは？	第 10 回： 保育士の仕事
第 3 回： 数字・年齢	第 11 回： まとめ（選択学習）
第 4 回： 家族	第 12 回： 聴覚障害者の歴史・教育
第 5 回： 趣味	第 13 回： 短文の表現・読み取り
第 6 回： 地域	第 14 回： 読み取り・表現のまとめ学習
第 7 回： 話してみましょう① 1日のことを話しましょう	第 15 回： まとめ
第 8 回： 話してみましょう② 1ヶ月、1年のことを話しましょう	第 16 回： テスト ①学科 ②実技・まとめ

テキスト： 手話奉仕員養成テキスト 全日本ろうあ連盟
※内容が変わる時もありますのでご了承ください

参 考 書： 『わたしたちの手話（1）～（10）巻 会話編 1～3』全日本ろうあ連盟出版局

評価方法・評価基準：手話実技（読み取り・表現）・聴覚障害者に関する基礎知識

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○	○		80
小テスト・ 授業内レポート							評価に加えず
授業態度							15
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
場面会話							5
その他							

履修上の注意：授業中は、講師の手話に集中し音声言語は慎むこと。

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員					
手話Ⅱ (Sign Language II)		神田 朋子					
授業の到達目標及びテーマ ろう講師との会話がある程度成り立ち、日常会話ができるようにする。							
授業の概要 前期で学習した内容を元に更にレベルアップできるようにしていき、自分の意見が手話でできるようにしていく。 予習：テキストに付いている DVD を見て、表現に慣れましょう。 復習：手話で習った表現を改めて表現(練習)してみましょう。							
授 業 計 画							
第 1 回： 前期の総復習 1	第 9 回： 聞き取り学習 1						
第 2 回： 前期の総復習 2	第 10 回： 聞き取り学習 2						
第 3 回： 前期の総復習 3	第 11 回： 読み取り・聞き取りまとめ 1						
第 4 回： 手話の構成要素 1 (位置・方向・動き)	第 12 回： ろう文化について 2						
第 5 回： 手話の構成要素 2 (位置・方向・動き)	第 13 回： 読み取り・聞き取りまとめ 2						
第 6 回： 非手指動作について	第 14 回： 手話通訳制度について						
第 7 回： 読み取り学習 1	第 15 回： まとめ						
第 8 回： 読み取り学習 2	第 16 回： テスト ①学科 ②実技・まとめ						
テキスト： 手話奉仕員養成テキスト 全日本ろうあ連盟							
参 考 書： 手話通訳がわかる本							
評価方法・評価基準：手話実技と学科試験の二通りで行います。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○	○	○	○	○		80
小テスト 授業内レポート							評価に加えず
授業態度							15
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず
場面会話							5
その他							
履修上の注意：講師の話に対して「分かる・分からない」の意思表示ははっきりできるようにする。また授業中の音声言語は慎むこと。 ※手話Ⅰ（前期）を受けた方を対象とする							

授業科目名	1 単位 (0-2)	担当教員
音楽Ⅲ (Music III)		大山 伸子
授業の到達目標及びテーマ：音楽Ⅰ・Ⅱの基礎クラス（必修）を経て、音楽Ⅲは応用クラス（選択）である。ピアノ奏法や、さまざまなアンサンブル奏法を学習し、幼児教育現場で十分に力が発揮できる保育者をめざす。授業の最終目標は、学内演奏会の企画・開催と出演である。		
授業の概要：「音楽Ⅱ」で学習したことを踏まえ、幼児音楽を具体的に教材化できる能力や、総合的な音楽能力が高められるようにする。授業形態は、習熟度にあわせた個人レッスンを行い、歌唱伴奏法や独奏、連弾など多様な音楽表現法やピアノ奏法、他・アンサンブルを習得する。幼児教育としての「表現」領域の重要性を理解し、保育現場で活用できる応用力や、より資質の高い音楽能力を獲得する。学習成果として、学内で卒業演奏会を行う。		
予習：毎時間与えられた課題曲を次の授業までに練習して臨むこと。		
復習：合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。		
授 業 計 画		
1. 課 題 (1) 各自の習熟度に合わせた選曲及び教員による課題： ①練習曲（ハノン No.38 及びNo.39）②ピアノ独奏 ③ピアノ連弾（4手連弾、6手連弾） (2) 幼児曲 各自で選曲： ①童謡 ②生活の歌 (3) 伴奏法： ① 弾き歌い (4) その他： ① ハンドベル奏法 ②その他の楽器によるアンサンブル奏法 (5) まとめ： ○ 学習成果として、学内演奏会を行う。		
2. 授 業 計 画（習熟度能力に応じた任意の曲で進める）		
第1回： オリエンテーション及びハノン（No. 38）の課題宿題	第9回： 任意曲 例：「モーツアルトピアノソナタ K. 331 番」「ジブリの曲」より	
第2回： ハノン No. 38（音階）のレッスン	第10回： ハンドベル演奏の任意曲	
第3回： ハノン No. 39(4 オクターヴのハ長調音階)	第11回： 任意曲及びハンドベル	
第4回： ハノン No. 39（4 オクターヴのト長調音階）及び各自の習熟度に応じた課題	第12回： ピアノの任意曲及び三線、クラリネット等のアンサンブル	
第5回： ハノン No. 39（4 オクターヴのト長調・イ長調・ニ長調・ヘ長調・変ロ長調）及び各自の習熟度に応じた課題	第13回： ピアノの任意曲及びリコーダー（ソプラノ、アルト、テナー、バス）アンサンブル	
第6回： 任意曲（習熟度による課題曲） 例：「ショパンのピアノ遺作」、ブルグミュラの「ピアノ曲25作品の「貴婦人の乗馬」	第14回： 演奏会リハーサル	
第7回： 任意曲 例：「ベートーヴェン悲愴一楽章」、童謡「犬のおまわりさん」等	第15回： 演奏会	
第8回： 任意曲 例：ホルストの「惑星」4手連弾、「星に願いを」テナーサックス等	第16回： まとめ・反省	
テキスト： 各自楽譜持参、コピー資料		参 考 書：
評価方法・評価基準：①授業への参加度②授業態度③ピアノ実技テスト ①～③を総合的に評価する。		
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断
試験 (中間・期末試験)		
小テスト・ 授業内レポート		
授業態度		10
受講者の発表		10
演 習		
	</	

授業科目名		2単位	担当教員																																																									
海外幼児教育研修（実習） （Presch. Ed. Overseas Fieldwork）			赤嶺 優子																																																									
授業の到達目標及びテーマ：実習を通して海外における保育の現状を理解する。 知識理解：価値観や文化の多様性を説明できる。 関心意欲：海外の幼児教育や保育に興味を持つ。 思考判断：自国の保育を客体化する。 態 度：異文化に対する適応力を持つ。																																																												
実習概要																																																												
ハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジ（ハワイ州カウアイ島）において、研修生用に開設された講義を受講するとともに、就学前の乳幼児や保護者等を対象とした移動幼児教育プログラム「Tutu & Me」やハワイ語イマージョン教育施設「Punana Leo」にて参観実習を行う。これらの実習をとおして、日本および沖縄の保育・幼児教育を客観的に観る視点を養う。 2週間の研修期間が課せられる。 予習：自己の研修目的を認識して、実習に臨めるように、学習を深めておくこと。 復習：自己の研修目的と照らし合わせて、反省、評価し、考察すること。																																																												
テキスト：必要に応じて資料を提供する。																																																												
参 考 書：必要に応じて資料を提供する。																																																												
評価方法・評価基準：実習態度、実習レポート、事前準備の取り組み等を中心に総合的に評価する。																																																												
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>試験 （中間・期末試験）</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>実習レポート</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>20</td></tr><tr><td>実習態度</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>70</td></tr><tr><td>事前準備</td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td>10</td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	試験 （中間・期末試験）								実習レポート	○	○					20	実習態度			○	○	○		70	事前準備			○	○			10	演 習								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																					
試験 （中間・期末試験）																																																												
実習レポート	○	○					20																																																					
実習態度			○	○	○		70																																																					
事前準備			○	○			10																																																					
演 習																																																												
その他																																																												
履修上の注意：																																																												

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
老人福祉論 (Welfare of the Aged)		近藤 功行

授業の到達目標及びテーマ：

知識理解：事前予備知識は不要。医療福祉をより理解することができることを目指す。
 関心意欲：医療・保健・福祉、障害者理解を含めた内容に興味を持てることを目指す。
 思考判断：現代社会における福祉に潜む内容など、単方向でなく多層的理解を目指す。
 その他：福祉の職場で保育士資格を有している人がいる。こうした人の知識に近づく。

授業の概要： 保育者養成における本講義の意義は、あらゆる子どもや障害児、者とその家族や高齢者の心理的側面の理解にある。また、高齢者の社会的ニーズについての社会的理解を深め、ノーマライゼーションの考え方が普及した中で、今後はさらにユニバーサルデザインなど一歩先行く概念の必要性などを考究しつつ、老人福祉サービスの包括的な体系を学ぶことも必要とされる。障害を持つ持たないに関わらず、人は必ず加齢に伴い老いを迎える。この時、障害を持つ可能性は高い。老人福祉法や介護保険制度などを学びながら、保育者として身につける豊かな人間性とケア能力を図る視点、資質を引き出す作業を講義を通して行うことを目指す。

予習：配付資料を用意して、講義を展開します。質問点を見つけ出して下さい。

復習：毎回、感想を書いて提出になります。アンケート的な部分はこちらで編集します。読み直して下さい。

授 業 計 画

第1回：	老人と子ども両者に有効な福祉政策とは — 老人と子どもの交流—	第8回：	高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（KJ法的手法によるグループ学習）①
第2回：	高齢者と子どもの「統合ケア」を考える視点	第9回：	高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（KJ法的手法によるグループ学習）②
第3回：	3障害（身体・知的・精神障害者）と高齢者 を考える視点	第10回：	幼児の思いやり行動と高齢者との触れ合いを探 る視点
第4回：	ノーマライゼーション、ユニバーサルデザ イン理念を考える視点	第11回：	統合（障害者受け入れ）保育と幼老共生の視点
第5回：	バリアフリーのソフト面、ハード面を考える 視点	第12回：	福祉サービスを探る視点
第6回：	高齢者と子どもを同じ場所でケアすること に対する効果	第13回：	福祉コミュニティを探る視点
第7回：	高齢者と幼児の世代間交流を考える視点（ア ンケート作成手法を学ぶ）	第14回：	実り豊かな人生を考える
		第15回：	まとめ（最終レポート提出作業に向けての課題説 明&解説）
		第16回：	期末試験

テキスト： 近藤功行（共著）1998『障害者の医療福祉のあり方についての考察』、川崎医療福祉学会誌 8(1)

近藤功行（共著）2000『高齢者の障害者でのQOL意識に関する研究』、保健の科学 42(1)

社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事制度研究会（監修）2002

社会福祉士・介護福祉士・社会福祉主事関係法令通知集、第一法規

評価方法・評価基準： 毎時間、感想用紙（B4）1枚を配布し、時間内に記述、回収する。この感想用紙の左端には講義に関連した質問内容を、右側には講義の感想を記述する欄を設けて書いてもらう。また右側の下部に「ここで一言」のコーナーを設け、ここは自由記載とする。欠席した場合も、後でこの感想用紙は提出して欲しい（この場合、講義の感想欄は配布プリントを読んだ感想内容でよい）。なお、この感想は講義の理解度を知る上で用いるものであり、試験にかわるレポート課題は終盤の講義で明示し、B5版の用紙に作成してもらうことになる。

到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
成績評価 試験 (中間・期末試験)	○	○					60
小テスト・ 授業内レポート	○	○	○		○		40
授業態度							評価に加えず
受講者の発表							評価に加えず
演 習							評価に加えず

履修上の注意： 予備知識は必要としない。講義は毎時間、担当者作成のプリント配布により行う。積極的に質問や発言をすることは大いに歓迎したい。講義で疑問に思ったことの学習なども含め、積極的な取り組みをして欲しい。なお、講義で課すものではないが、受講者のなかで国立療養所沖縄愛楽園訪問希望者があれば、訪問を計画、実施したい。